

平成 30 年度 第 1 回飛驒市総合政策審議会

日時：平成 30 年 7 月 5 日 午後 1:00～
場所：市役所西庁舎 3 階 大会議室

1. 開 会

2. 委嘱状交付

3. 市長挨拶

4. 会長挨拶

5. 会長職務代理者の選出（飛驒市総合政策審議会設置条例第 5 条）

6. 協議事項

- ① 平成 28・29 年度主要施策の実施結果と課題について … 別紙①
- ② 平成 29 年度地方創生関連交付金事業の効果検証について … 別紙②

7. そ の 他

8. 閉 会

平成28・29年度 主要施策の実施結果と課題

平成30年7月5日



飛騨市の目指す将来像

「元気で、あんきな、 誇りの持てるふるさと飛騨市」

元気

人口減少の影響を軽減するため、**地域外から所得を稼ぐ**製造業、農業、観光を振興しようとする取り組み。商品（地域）の魅力を高め、産業を支える人を確保する。

あんき

地方自治体の本務である**市民の安全・安心を守る**取り組み。介護、医療、障がい児者支援、低所得対策など。一人ではできないが、誰もがやってほしいと思うことをやる。

誇り

飛騨市の地域資源を掘り起こし、市民の自信につなげることで、飛騨市を誇りに思う気持ちを高め、若者の定着とUターン、移住を促進する。

主要施策一覧

1. ひだ宇宙科学館カミオカラボの整備	… 1	27. 在宅介護の支援	… 7
2. ロスト・ライン・パーク構想の推進		28. 富山大学と連携した健康なまちづくりの推進	
3. 古川祭のユネスコ無形文化遺産登録関連事業		29. まめとく健康ポイント等の健康づくり支援	… 8
4. まちなか観光案内所の開設		30. ケアオルト健康ウォーキングの普及促進	
5. 飛騨古川まつり会館の整備	… 2	31. 消防防災ヘリポートの設置	
6. 池ヶ原温原バリアフリー遊歩道の整備		32. 危機管理体制強化と地域防災力の拡大支援	
7. 安峰山展望台の歩道設置		33. 防災備蓄品の充実	… 9
8. アニメーション・ロケーションの推進		34. 空き家対策の推進	
9. 外国人技能実習生の受入支援	… 3	35. 公共交通の整備促進	
10. 農業の担い手確保と育成		36. ふるさと教育の推進	
11. 企業の魅力的な就職情報の発信		37. JFAこころのプロジェクト「夢の教室」開催	…10
12. 飛騨市推奨特産品認定制度		38. 魅力ある地元高校づくりの推進	
13. ネットショップ運営人材の育成	… 4	39. 山城跡（城館群）の整備・活用	
14. 飛騨牛生産基盤の強化		40. 希少伝統産業の後継者育成	
15. 飛騨市広葉樹のまちづくり推進事業		41. 小さなまちづくり応援事業	…11
16. 有害鳥獣の捕獲対策		42. ひだプラスの運営支援	
17. 木育の推進	… 5	43. 飛騨みんなの博覧会の開催	
18. 入園・入学準備品の支援		44. 大人の社会科見学ツアーの開催	
19. 病児・病後児・体調不良児保育事業		45. 飛騨市ファンクラブの推進	…12
20. 障がい児者福祉施設の整備		46. ふるさと子ども大使	
21. 発達支援センターの体制強化	… 6	47. 地域間交流バスの運行	
22. こどものこころクリニックの開設		48. 高野千本桜夢公園の整備	
23. 高齢者等の克雪対策支援		49. 飛騨市薬草ビレッジ構想推進プロジェクト	…13
24. 買い物弱者の支援		50. 飛騨えごまの里推進プロジェクト	
25. 医師人材の確保	… 7	51. 地域おこし協力隊事業	
26. 介護人材の確保・育成		52. ふるさと納税の推進	

1. ひだ宇宙科学館カミオカラボの整備

【目的】 「宙ドーム・神岡」を宇宙物理学の研究内容をわかりやすく紹介する施設として整備し、市民はもとより対外的にも施設をPRすることにより、宇宙物理学に興味を持つ層から、小中学生等のこれから興味を持って欲しい層はもとより、幅広い層の誘客につなげる。

【実績】 施設整備にあたり有識者を含む検討組織を設置。物販棟を新たに増築し、旧物販棟部分を展示棟にリニューアル。平成31年4月オープンを目指し、平成29年～平成30年の2ヵ年で整備している。

【決算額】 H28：8,135千円 H29：166,846千円

【課題】 施設の整備にあたり、本施設の効果的なPRの実施と、専門知識を有したガイドによる案内など、運営体制の整備が必要。平成30年度は施設整備にあわせ、ウェブサイトの制作とガイドによる来客対応シミュレーションを実施予定。



2. ロスト・ライン・パーク構想の推進

【目的】 旧神岡鉄道という地域資源を保存し、積極的な活用を推進するNPO神岡・まちづくりネットワークとともに、交流人口の増加を目指す。

【実績】 溪谷コースの安全対策工事を実施するとともに、車両「おくひだ1号」の移設イベントやロストラインシンポジウムを開催し、レールマウンテンバイクの魅力発信を推進。【RMTB利用者数 H28：41,988人 H29：40,964人】

【決算額】 H28：48,070千円 H29：110,334千円

【課題】 安全面が最優先であり、定期的な施設点検の実施が必要。あわせて、利用者増の取り組みに加え、利用者増に伴う、観光客の街中への誘導、アクセスの利便性向上についても市民等を交えた検討が必要。



3. 古川祭のユネスコ無形文化遺産登録関連事業

【目的】 「鼓動する無形文化遺産 山・鉾・屋台が結ぶ広域連携」をテーマに、イベントを開催し、無形文化遺産を核とした地域連携と、祭・屋台行事を活用した新たな地域活性化を図る。

【実績】 県内外7市と連携した「飛濃越能交流フェスティバル」を飛騨市文化交流センターで開催。飛騨市の祭行事実演や弦楽四十奏のコラボコンサート等を実施。【来場者数 3,000人】

【決算額】 H28：2,946千円

【課題】 ユネスコに同時登録された“33団体の山・鉾・屋台行事”的ご縁を活かし、相互間の交流人口の拡大を図る必要がある。今後は、古川祭を担う若い世代に古川祭の歴史や古川祭の魅力を伝える取り組みを継続実施し、保存・伝承に努めるほか、古川祭史の制作に着手する。



4. まちなか観光案内所の開設

【目的】 H27に社会実験として臨時開設した「まちなか観光案内所」の実証効果を踏まえこれを常設化し、観光スポットや近隣観光地、飲食店情報を提供することにより、観光客の利便性向上と観光動態調査等の拠点として活用する。

【実績】 旧野七商店の店舗部分の内外装リニューアルとエアコン等の設置を実施。JNTO認定外国人観光案内所に登録。【利用者数 H28：18,188人（8月～3月） H29：27,893人】

【決算額】 H28：6,360千円 H29：9,092千円（案内人人件費等含む）

【課題】 立地条件に恵まれていることから、常時多言語対応を行うなど、ソフト面を拡充することで外国人旅行者に飛騨市の魅力を伝え、リピーターとしてインバウンドのさらなる需要が見込まれる。今後も、市を代表するおもてなし拠点としてより良い運用を図るための協議を関係者と続けていく。



5. 飛騨古川まつり会館の整備

【目的】 開館以来大きく手が入れられておらず、観光拠点施設としての機能が十分に果たされていない状況から、ユネスコ無形文化遺産登録を契機とし、魅力的に祭り文化を紹介できるような施設整備を実施する。

【実績】 映像ホールで放送している祭映像を高画質の4K映像にリニューアルし、体格の大きな外国人の方にも対応できるよう客席の改修を実施。
【入館者数 H28：20,194人 H29：25,817人】

【決算額】 H28：49,187千円 H29：47,269千円

【課題】 展示内容や装飾について、開館当時からほぼ手が入っておらず、特にパネル

【対策】 等は劣化が目に見えて分かる状況であることから、リニューアルが必要であると考え、H30に展示装飾品のリニューアル計画を策定し、他地域と連携した企画展等の開催も検討していく。



6. 池ヶ原湿原バリアフリー遊歩道の整備

【目的】 市内三湿原回廊の一つであり「岐阜の宝もの」に認定されている池ヶ原湿原の魅力向上のため、車椅子でも通れる木道を整備し、駐車場から湿原まで気軽にいける環境をPRすることで誘客を図る。

【実績】 有識者の指導により、湿原内の水脈の通水の妨げとならないよう湿原周囲の山裾に平成28年度からの3ヵ年かけて木道を整備。
【入込客数 H28：3,710人（4/23～5/31 24日間）
H29：3,017人（4/29～5/28 21日間）】

【決算額】 H28：58,234千円 H29：31,073千円

【課題】 車から降りてすぐに湿原内に入ることのできるところは全国でもほとんどなく、車イスや高齢者の方でも安心して湿原内に入れる利点をPRし、誘客を促進する必要がある。



7. 安峰山展望台周辺の環境整備

【目的】 白山や古川盆地を一望できる展望台を、歩行が困難な方でも車イスのまま自由に眺望していただけるようにするための環境整備を行う。

【実績】 新たに駐車場から展望台までスロープを整備するとともに、視界の妨げになる立木の伐採を行うなどの環境整備を行った。
・景観眺望の支障となる立木の伐採 A=5ha
・ユニバーサルデザインに配慮したスロープの設置 L=21.5m

【決算額】 H28：1,026千円（不用木伐採） H29：5,891千円（スロープ設置）

【課題】 車椅子や高齢者の方でも気軽にかける場所となったことを広報紙やSNS等
【対策】 の媒体を活用してPRし、誘客を促進する必要がある。



8. アニメツーリズム・ロケツーリズムの推進

【目的】 アニメ映画「君の名は。」の大ヒットにより、認知度が上がっているタイミングで、機を逸することなく、様々な仕掛けを実施し、舞台イメージの地を巡る「聖地巡礼者」の増加を図る。

【実績】 市民を対象とした地元上映会や、飛騨市美術館での企画展の開催、また、誘客促進のために高速バスの車体に映画と飛騨市をタイアップさせた装飾を施すラッピングバス、また聖地巡礼マップの作成を実施。
【観光客数 H28：1,005,881人 H29：1,130,852人】

【決算額】 H28：9,180千円 H29：4,018千円

【課題】 認知度が上がっているタイミングを活かすには、継続的な情報発信やメディア
【対策】 が注目する事業を継続的に実施する必要がある。そのため、ロケ地としての魅力を知ってもらうため、ロケハン等の積極的な誘致とロケ地として活用できる場所の情報収集を行う。



9. 外国人技能実習生の受入支援

【目的】 市内事業者への、高齢者及び女性の活躍のための聞き取り調査の中で、外国人技能実習生の活用支援を求める声が多かったことを受けて、通訳や生活の支援制度を創設し、地域に根付く人材を養成することで人材不足の解消を図る。

【実績】 実習生の不安を解消させることを目的に、交流を深める会を実施したところ、実習制度を活用する前段として交流に参加したいと希望する企業が複数あり。
【参加者：32名（内タイ5 ベトナム13）】
日本語・飛騨の生活文化学習会の実施【利用企業 3社 延べ24人】



10. 農業の担い手確保と育成

【目的】 農業従事者の高齢化が進み、担い手が不足する中、市内で安心して就農してもらえるように関係機関と連携して生活・営農・経営についてサポートを行い、新規就農者の確保と育成を図る。

【実績】 首都圏での就農フェアへの出展や就農特設サイトの開設、若手農業者の研修や交流の促進、就農直後の経済的支援等を実施。
【新規就農者 H28：3人 H29：6人】
【トマト研修生 H28：2人 H29：3人（※2年間研修）】



11. 企業の魅力的な就職情報の発信

【目的】 市内企業で活躍する先輩のインタビューや市内企業で働くことに対する高校生と市長の対談など、市内企業の魅力を掲載した就職総合情報誌を作成し、就職前の学生に配布することで地元就職につなげる。

【実績】 飛騨市就職総合情報マガジン「ANKININARU」を発行し市内高校3年生全員に配布。平成28年度に市内企業紹介サイトのリニューアルを実施。
【第1刊：平成29年3月 第2刊：平成30年3月】

【決算額】 H28：2,756千円 H29：1,134千円

【課題】 人材不足対策として、学生が就職を考える時期にこの情報誌が手元に届く
【対策】 仕組みが必要である。従来の高校3年生に加え、平成30年度は大学・短大進学者の家族へ配布、同時に就職意識に関するアンケートも実施。



12. 飛騨市推奨特産品認定制度

【目的】 市外、飛騨地域外から外貨を稼ぎ、消費を拡大していくために、既存特産品のブランド化や新たな特産品の開発と販路拡大が必要であることから、飛騨市が推奨する特産品の認定制度を設けPRにつなげる。

【実績】 飛騨市独自の特産品認定制度を創設するため、外部有識者を交えて制度設計を検討。また審査基準の策定や審査員の選定、認定ロゴマークの作成などを実施。【認定点数 H28：10点 H29：5点】

【決算額】 H28：547千円 H29：565千円

【課題】 市内の全国に誇れる優れた商品をいかに掘り起こし、飛騨市ブランドの向上を目指すかが課題。認定商品は今後自動車道SAや観光物産展、フードマッチング等でプロモーションを図り、認知度向上と販路拡大を目指す。



13. ネットショップ運営人材の育成

【目的】 好評のふるさと納税に登録してある市内の食品、工芸品、お土産等の特産品をいつでも、全国から購入することができるネットショップを開設するため、運営にかかる人材育成を図る。

【実績】 ネットショップの専門事業者に委託し、開設、商材選択、決裁、必要な届け出など基礎的実務に関する研修会を飛騨市役所において10日開催した。
【研修者数】 H29：4人】

【決算額】 H29：1,615千円

【課題】 平成29年度はネットショップ運営に必要な基礎的なスキルを身につける研修

【対策】 を実施したが、ネットショップ開設を見据え、実践・運営の研修が必要なため、平成30年度は、実践的研修と、ネットショップ開設の準備を実施する。



14. 飛騨牛生産基盤の強化

【目的】 繁殖素牛価格の高騰による農家の経済的負担を軽減し、市内の優良な遺伝資源を確保する。

【実績】 岐阜県の系統牛として認定されている「おやま系」の飼育頭数を増やすことを目的に保留・導入する農家に対し補助するなど、市の特色である系統牛保留対策事業を中心に実施。【支援頭数 H28：63頭 H29：70頭】

【決算額】 H28：8,140千円 H29：8,176千円

【課題】 子牛市場価格が高騰している中、高齢農家に対し保留を勧めることは大変

【対策】 難しく、大規模経営農家であっても目先の利益を重視してしまう状況。市畜産の10年後の将来をしっかりと見据えた指導が必要であり、資質を重視した保留ばかりではなく、飼養頭数増加を目的とした施策が今後必要。また、平成30年度は飛騨牛研修・繁殖センターの建設を支援し、増頭にあわせ新規就農者の育成を図る。



15. 飛騨市広葉樹のまちづくり推進事業

【目的】 これまで積極的に活用されてこなかった広葉樹を市の重要な資源として見直し、多くがチップとして市外に流出している広葉樹の多様な分野での活用を進める広葉樹のまちづくりを推進する。

【実績】 広葉樹資源量調査や全戸を対象としたアンケート調査の実施により、広葉樹活用に関する基礎的な情報を把握するとともに、市内から切り出した小径木広葉樹を活用した新たな商品開発や関係者の組織化など、広葉樹のまちづくり実現に必要な取り組みを実施した。

【決算額】 H28：33,289千円 H29：6,522千円

【課題】 広葉樹材の安定供給と販売力強化の一貫した仕組みづくりが課題。このため、

【対策】 民間事業者等と連携した事業の継続推進を図る。



16. 有害鳥獣の捕獲対策

【目的】 有害鳥獣捕獲に対する支援のほか、狩猟免許取得にかかる支援を行うことで担い手（狩猟者）を確保するとともに、ジビエの理解促進と有効活用の普及に資する取り組みを行い、野生獣による被害軽減を図る。

【実績】 ・新規狩猟免許取得支援 H28：1名 H29：8名（@50万／人）
・ジビエの理解促進及び有効活用の普及（セミナーの開催1回、ジビエ普及イベントの実施1回）

【決算額】 H28：6,273千円 H29：10,058千円

【課題】 新規免許取得者の確保と有害鳥獣捕獲に関する知識・技術の向上が課題。

【対策】 有害鳥獣被害対策研修会を継続的に実施する（新規取得者の確保と有資格者に対する研修機会の充実）



17. 木育の推進

【目的】 子どもから大人までが私たちの豊かな暮らしを支える森林や木に触れる機会を作ることを通じて、その大切さや価値に気付くきっかけづくりを行うことを飛騨市の「木育」と位置づけ、その推進を図る。

【実績】 「飛騨市の木育を広める会」と連携しながら古川と神岡の子育て支援センターに木育ひろばを設置し木に触れることのできる環境を整備するとともに、木育推進人材（ぎふ木育推進指導員）の育成や木育推進イベントを実施。

【決算額】 H28：1,063 H29：1,281千円

【課題】 民間レベルでの木育普及人材の確保と研修拠点の整備が課題。今後もぎふ

【対策】 木育推進指導員の継続した育成（増員）を実施していく。



18. 入園・入学準備品の支援

【目的】 「入園入学祝い金制度」について、ニーズ検証の為の保護者アンケートを実施した結果、入学時に必要な制服や教科書等の購入費用が最も負担に感じていることから、子育て世帯のニーズに合った支援を実施するもの。

【実績】 対象年代ごとに上限額の範囲内で助成を実施。対象品目は体操服、制服、ランドセル、通学バッグ、教科書、上履き等
【利用者数 H28：572人 H29：709人】

【決算額】 H28：57,119千円（入園・入学祝い金制度）
H29：21,941千円（入園・入学準備品支援事業）

【課題】 補助対象品目について、拡大を図るよう要望があった。

【対策】 平成29年度末に高校生の制服・体操服類、体育館シユーズ、通学カバン等を追加し、平成30年度から適用した。



19. 病児・病後児・体調不良児保育事業

【目的】 病児・病後児・体調不良児に対して一時的な保育を提供し、保護者の就労を支援することで、安心して子育てができる環境を整備する。

【実績】 ①病児・病後児は、特養さくらの郷あさぎり内にH28.10～開設し実施。
②体調不良児は増島保育園で実施。
【利用者数 H28：①60人②408人 H29：①195人②511人】

【決算額】 H28：12,181千円 H29：13,821千円

【課題】 現在は拠点が古川のみであり、他地域の保護者にとっては利用しづらい状況

【対策】 であることから、平成30年度は神岡地区での開設を目指す。



20. 障がい児者福祉施設の整備

【目的】 障がい児者の就労支援や社会との交流促進、居場所づくりなどを整備するための事業者への支援と、日中一時支援施設等を整備し、障がいのある方がいつまでも安心して暮らせるまちを整備する。

【実績】 神岡地区に日中一時支援施設、児童複合支援施設を整備中。あわせて、様々な事業者の事業参入を支援。
【事業者支援件数 H29：3件】

【決算額】 H29：37,983千円（事業者への施設整備支援額）

【課題】 市内に多様な障がい児者支援事業所の数が少なく、サービスが受けづらい。

【対策】 このため、市内における多様な障がい児者支援事業所の参入を促進し、サービスの確保を図り、安定した障がい児者の支援体制を整備する。なお、平成30年度は、古川地区にグループホーム整備のための設計業務を実施予定。



21. 発達支援センターの体制強化

【目的】	発達障がいのある子どもが、その特性に応じた支援を受けて社会に適応する能力を身につけ、個々の様々な能力を伸ばしていくことができるよう、発達支援センターの体制を強化し、対象児童へ適時・適切な支援を実施する。
【実績】	精神保健福祉士の資格を有した専門的人材をセンター長に、あわせて学校との連携強化を図るため、教職員OBを配置。また、正しい理解と具体的な支援等について保育士対象の研修会や、保護者対象の講演会を開催。
【決算額】	H28：375千円 H29：3,818千円
【課題】	ライフステージを見据えた学齢期・青年期の家族不安の解消と重度障がい者の就労対策が課題。このことから、平成30年度は、保育所等訪問支援事業を立ち上げ、小学校入学時の不安解消に努める。また、精神的に生きづらさを感じている人に「ふりーすペーす」を開設し、居場所を提供する。重度障がい者を飛騨市の業務支援職員として雇用するなどを実施。



22. こどものこころクリニックの開設

【目的】	飛騨地域の発達障がい児が医療機関に受診する場合、岐阜市等の遠方しか医療施設がなく、保護者の負担が非常に大きいことから、飛騨地域の発達支援体制の向上を目的に、その拠点となる児童精神科診療所を整備する。
【実績】	自治体としては全国初の児童精神科単科の診療所「飛騨市こどものこころクリニック」をハートピア古川内に開設。あわせて発達障がい等の正しい理解の周知を目的に記念講演会を開催。平成30年度から月～金の週5日診療。
【決算額】	(開設準備)H28:2,700千円 H29:12,821千円 (運営)4,579千円
【課題】	教育や各種支援者側に医療側の治療・支援における考え方等が円滑に伝わるよう、双方の共通認識が高まる関係性を構築し、重症化の予防の観点で医療の提言が地域に普及できる体制づくりが課題。医療が求めることが共通の認識にたてるような教育者・支援者への研修等を実施し、学校や保育園等各種支援機関に理解者を広げていくことが必要。



23. 高齢者等の除雪対策支援

【目的】	高齢者世帯の除雪作業が困難との相談が多い中、官民協同による雪下ろしの支援体制を構築し、雪害を未然に防ぎ、いつまでも安心して暮らせる環境を整備する。
【実績】	(一社) 吉城建設業協会に雪下ろし作業等を受け付けるワンストップ窓口を設置。また、融雪装置等の設置や雪下ろし費用の一部支援を実施。 【雪下ろし支援実績 H28：115件 H29：52件】
【決算額】	H28：4,842千円 H29：1,768千円
【課題】	降雪で利用者の依頼が集中するため、実施業者への振り分け調整が必要で
【対策】	あるが、ワンストップ窓口にしたことにより雪下ろし作業の調整を行うことができた。今後は作業員の確保が課題と考える。



24. 買い物弱者の支援

【目的】	商店街や小売店の廃業などにより、徒歩生活圏での買い物が困難な方、いわゆる買い物弱者が増えていることから、移動販売事業を行う事業者に対し事業参入・継続の支援をおこなう。
【実績】	生鮮食品及び生活必需品を移動販売車両により販売する事業者に対し、燃料費等の運行経費と車両等の購入費の一部支援を実施。なお、運行経費の助成上限を40万円(H28)→100万円(H29)に引き上げ。 【支援件数 H28：運営3件 H29：車両2件、運営4件】
【決算額】	H28：1,200千円 H29：7,165千円(車両3,348、運営3,817)
【課題】	運行経費の負担が大きいが、販売価格への上乗せは利用者の負担となり市の継続的な支援が必要と考える。



25. 医師人材の確保

【目的】 富山大学との協働事業として医学生や研修医の通年実習の受入、医学生との交流や医療講演会等を開催することで、飛騨市民病院の医師不足の改善を目指す。

【実績】 地域医療研修協力施設として臨床研修2年目の医師を7病院から28名受け入れ、延べ640日の実務研修を実施した。また、学生研修は、富山大学の4・5年生12名に延べ59日間、岐阜大学の1年生に3日間の研修を実施。

【決算額】 H28: 2,142千円 H29: 2,237千円

【課題】 これまで同様、富山大学等と連携し、医師の確保に努めるとともに、古い医師住宅を改修した研修用宿舎のため、水周りが共用で不便であることから、研修医や医学生が研修後に安らぎを感じ翌日の活力につなげられるよう、プライベートの守られた研修用宿舎の整備について検討を進め、地域医療を学ぶことのできる最高の実習フィールドとなるよう環境整備を推進する。



26. 介護人材の確保

【目的】 介護従事者の確保が困難な状況であり、神岡町の特養が増床した20床を開所できないなどの問題が発生している。市では、介護施設等との意見交換により浮き彫りになった課題に重層的な対策を講じ、人材の確保を目指す。

【実績】 事業所の人材確保の取組みと市が協働し、各種施策が相互に作用することで、古川町では休止していた特養、ショート19床の再開所にこぎつけた。神岡町の特養は、あと夜勤者3名の確保が必要で、法人が実施している在宅サービスの見直しも行うことで、本年内には、休床部分の供用を開始する予定である。

【決算額】 H28: 13,631千円 H29: 7,335千円

【課題】 即効性のある施策から始めたが、U・Iターン・外国人等外部からの受入や、若手を育成し市内で就職してもらう視点が欠かせない。30年度からU・Iターン等の外部からの人材確保施策をより強力に展開する。



27. 在宅介護の支援

【目的】 在宅介護で家族が最も苦労している排泄介助の負担軽減を図るために、排泄の自立と介護負担軽減に貢献できる介護ロボットの普及や、家族による介護を支援する応援手当を支給することにより、介護者の負担軽減を図る。

【実績】 ①家族介護応援手当 【支給者数 H28: 130人 H29: 112人】
②水洗式ポータブルトイレの購入支援。
【支援者数 H28: 0件 H29: 4件】

【決算額】 H28: ①16,620千円 H29: ①14,840千円 ②1,800千円

【課題】 ②は制度創設時は利用がなかったため、ケアマネの意見を参考に要介護者に加え要支援者も対象とした。また、市内の取扱事業所が下取制度を設けたことから、より利用しやすくなっている。今後は、ケアマネージャーを通じて在宅介護者への有用性を説明し、普及促進を図る。



28. 富山大学と連携した健康なまちづくりの推進

【目的】 地域医療の現状を理解しながら、自らの健康づくりや健康な地域づくりに行動を起こす市民や関係専門職を養成し、地域で医療を守る体制づくりを目指す。

【実績】 富山市健康まちづくりマイスター養成講座に関係者で参加後、市内で健康まちづくりの必要性を理解するための講演会を開催した。あわせて、30年度の飛騨市でのマイスター養成講座開催のための企画・講師手配等の準備を富山大学に行っていただいた。本年6月より実施し、約70名が受講している。

【決算額】 H29: 1,500千円

【課題】 地域包括ケアシステムにおける市民の役割は「自助」。自分の健康を自分で守ることを実際に市民レベルで実践することに意義がある。受講後様々な自主活動が起こっていくようフォローしていくことが必要。

飛騨市×富山大学附属病院 総合診療部 連携事業 飛騨市健康まちづくりマイスター養成講座 受講者募集！



29. まめとく健康ポイント等の健康づくり支援

【目 的】 自らの健康を自らが作るというセルフマネジメントの意識を持って、それぞれのレベルに応じた健康づくりに踏み出すための仕組みを作り、市民全体の健康意識の向上を図る。

【実 績】 20歳以上の全ての市民を対象に、様々な健康づくりへの取り組みをポイント化し、賞品と交換できるシステムを構築。
【参加者 1,866人】 【賞品交換者数：875人】

【決算額】 H29：1,562千円

【課 題】 平成30年度から中学3年生健診、フレッシュ健診を開始しているが、現在の
【対 策】 まめとく健康ポイント事業は20歳以上が対象であるため、次年度からは、15歳から19歳までを対象とするよう検討したい。



30. クアオルト健康ウォーキングの普及促進

【目 的】 市内の森林空間の中に設けられた専門コースを無理なく歩く気候性地形療法を基本にしたウォーキングを推進し、市民の健康づくりとウォーキングを通じた交流人口の拡大を図る。

【実 績】 市内に2コース（飛騨古川朝霧の森コース、森林公園コース）を整備するとともに、ガイド9名（実践指導者4名、普及ガイド5名）を養成。また、コース開設記念ウォーキングを開催し、約60名が参加。

【決算額】 H29：1,066千円

【課 題】 事業推進のためのガイド組織設立、ガイド養成、コースの新設が課題。平成30年度は毎月ウォーキングイベントを開催し周知を図るとともに、新たなガイド組織を平成31年度初めを目指して設立し、以降、組織が中心となってガイド養成やコースの新設について検討を行う体制を整備する。



31. 消防防災ヘリポートの設置

【目 的】 これまで神岡地区には専用ヘリポートが無く、グラウンド等の利用承諾を得る必要があったことから、通年使用可能な専用ヘリポートを整備し、市民病院からドクターへリを活用した県内外病院へのスピーディーな搬送を図る。

【実 績】 旧神岡東小学校グラウンドに専用のヘリポートを整備。
【搬送件数 H29：21件】

【決算額】 H28：30,414千円

【課 題】 古川地区については河川敷を利用しておらず、災害時等の活用を考え、新たな
【対 策】 ヘリポートの整備を検討する必要がある。（危機管理課と検討中）



32. 危機管理体制強化と地域防災力の拡大支援

【目 的】 全国で頻発する大規模災害を踏まえ、市役所の危機管理体制及び地域の防災力の強化を実施し、災害発生時の迅速な対応、被害の軽減を図る。

【実 績】 市に新たに危機管理課を設置し専門知識を有する者を外部から招聘。地域の防災リーダーとなる防災士資格取得費用の全額補助、土砂災害ハザードマップの作成・配布、災害時のドローンの有効性について実証実験を実施。
【防災士資格保有者 H28：28人 H29：51人】

【決算額】 H28：2,042千円 H29：3,355千円

【課 題】 防災士取得のための研修会は岐阜市内まで出かける必要がある。このため、平成30年度に、防災士取得のための研修会を飛騨市内で独自開催する。また、洪水ハザードマップの見直し、災害用ドローンの配備を実施予定。



33. 防災備蓄品の充実

【目的】 市の災害用備蓄品は定期的に補充、更新しているものの、必要量の2割程度しか確保できていない現状であったことから、発災時において避難した市民を早急に支援するため、食料や毛布等の備蓄品の充足を図る。

【実績】 備蓄量を人口の30%の3日分と設定し、市と区に振り分けて分散配置。市の備蓄拠点としてコンテナ4台をハートピア駐車場に配置。あわせて今後5年間に備える費用の防災基金への積み立てを実施。

【決算額】 H28：1,719千円 H29：13,665千円

【課題】 古川町内における備蓄がハートピア付近のコンテナに集中している。このため

【対策】 今後、避難所となっている小中学校の体育館等の近傍にコンテナを配置し、備蓄を分散する。



34. 空き家対策の推進

【目的】 人口減少に伴う空家の増加により、中には適切に管理されず地域住民の生活環境に影響を及ぼしている物件があることから、管理不全状態にある空家の解消を図るとともに、空家の活用を推進する。

【実績】 平成28年度に「飛騨市空家等対策協議会」を立ち上げ、管理不全空き家の解消に対する協議を計6回開催。その協議結果を元に、平成29年度に「飛騨市空家等対策計画」、「特定空家等の判断基準マニュアル」を策定。

【決算額】 H28：116千円 H29：128千円

【課題】 今後は、倒壊等の恐れがある特定空家等について、専門家による詳細調査

【対策】 を行い、特定空家を認定することで、その所有者等に対し必要な措置をとるよう求めていく必要がある。



35. 公共交通の整備促進

【目的】 平成27年10月に再編を行ったが、各地区や市民と市長の意見交換会等で多くのご意見をいただきており、今後も、市民が安心して快適な暮らしができるよう公共交通の質の向上に努める。

【実績】 飛騨市公共交通会議における協議を踏まえ、運行経路・ダイヤの見直し等を実施。また、交通結節点1箇所に新たに待合所を新設。一方で、民間路線に対する定期券料金の公的補助額の変更を実施。

【決算額】 H28：143,633千円 H29：163,409千円

【課題】 市営バスは、12路線中7路線が1日1便当たり平均1人に満たない利

【対策】 用状況である。特に利用者の少ない路線については、実情を把握した上で運行方法を含めた見直しを検討していく。



36. ふるさと教育の推進

【目的】 子ども達が地域づくりへの参加を通じ、そこで生きる人々の生き様や考え方を学ぶことを目的として、市内小中学校それぞれの創意工夫による地域に根ざした「ふるさと教育」を推進する。

【実績】 8つの市内小中学校において、古川では市内企業訪問、河合では地歌舞伎、宮川ではナチュール宮川での宿泊体験、神岡では春慶塗など様々な体験学習を実施。また、社会科資料「ふるさと飛騨市」の改訂を実施。

【決算額】 H28：4,405千円 H29：4,226千円

【課題】 各学校のふるさと学習の成果について、市民への広報のさらなる充実を図る

【対策】 必要がある。そのため、成果発表会の実施や学校だよりの発行・報道機関への情報提供について、市民への広報を一層意識して計画的・積極的に行う。



37. JFAこころのプロジェクト「夢の教室」開催

【目的】 現役のプロスポーツ選手やそのOB・OGなどのスポーツ関係者を夢先生として小学校に招聘し、子ども達に夢や希望を持つことの大切さ、仲間と協力することの素晴らしさなどを伝え、将来に希望を抱いてたくましく生きる子どもを育む。

【実績】 一流アスリートと古川小学校・古川西小学校の5年生との触れ合い授業を平成29年度から開催。
【アスリート H29:大山加奈（元全日本バレー選手）】

【決算額】 H29: 540千円

【課題】 「夢の教室」を一過性のもので終わらせず、年間のプログラムの中核的活動に
【対策】 することが重要。そのために、今後JFAと学校・教育委員会が連携・協力して、事前・当日・事後のプログラムを検討・作成していく。



38. 魅力ある地元高校づくりの推進

【目的】 吉城高校と飛騨神岡高校は定員割れが続き、県から高校の活性化対策推進対象校の指定を受けた。両校は地域の活力を維持する重要な高校であり、地域住民、関係団体と一緒に両校の魅力を高め、PRを強化する。

【実績】 宇宙線研究機関や楽天(株)と連携した事業や、タブロイド版チラシを作成し市内・飛騨圏内に両校のPRを実施。また、「地域連携による活力ある高校づくり推進協議会」を設立し、関係者により両校の魅力ある取組の検討を実施。

【決算額】 H28: 1,169千円 H29: 1,705千円

【課題】 取組が市内及び近隣自治体の住民に見える化できるよう積極的な情報発信が必要。また、中高校生や保護者のニーズ、現状把握を行った上で取組の推進が求められることから「飛騨神サポーター」や「吉城高校キャリア教育コーディネーター」をはじめ、地域住民や関係団体と連携した取組を推進する



39. 山城跡（城館群）の整備・活用

【目的】 「江馬氏城館跡」の効果的な保存活用の推進と、新たに姉小路氏関連城館群の調査発掘を行い、その価値を市内外に分かりやすく伝えるとともに、市民に山城及び飛騨の歴史文化に誇りを持ってもらうことを目的とする。

【実績】 江馬氏館跡庭園が国の名勝に指定され、史跡指定とあわせ県内では唯一のダブル指定となった。また、市民へ価値を知りためのセミナーの開催や、山城マップを作成し、普及啓発を図った。

【決算額】 H29: 4,208千円

【課題】 市内の歴史資源の周知と利活用を図る必要がある。このため、セミナーを引き続き継続して実施する。また、県史跡「塙松城跡」を国史跡「江馬氏城館跡」へ追加指定することで、歴史的価値の向上を図るほか、平成33年度の国史跡指定を目指し姉小路氏関連城館群の総合調査を実施予定。



40. 希少伝統産業の後継者育成

【目的】 山中和紙や神岡春慶などの希少伝統産業を後世に伝えるためには、後継者の育成が急務であることから、後継者の育成中の生活支援と独立に必要な初期投資の支援をおこない、希少伝統産業の振興を図る。

【実績】 技術後継者育成奨励金制度により山中和紙（師匠1名、弟子2名）と神岡春慶（師匠1名、弟子1名）の育成を行い、それぞれ1名ずつが独立し創業を開始。

【決算額】 H28: 4,500千円 H29: 5,470千円

【課題】 独立創業により後継者の断絶は回避できたが、そこからの周知及び販路の開拓と拡大、新商品の造成等、課題は山積しており、特徴を見出し、他地域の同様な産業との差異化を図ってブランド化を進める必要がある。



41. 小さなまちづくり応援事業

【目的】	数多く存在する市民自らが取り組むまちづくり活動を支援し、あわせて新たなまちづくり活動の掘り起しや、活動内容を広くPRする機会をつくり、やりがいや誇りの醸成につなげる。
【実績】	まちづくり活動を公募し、市民参加型審査会（コンペ形式）でのプレゼンで合否判定を実施。また、活動終了後は報告会を開催することにより広くPRを図った。【合格団体 H28：14団体 H29：18団体】
【決算額】	H28：3,301千円 H29：4,135千円
【課題】	応援事業を何年も継続実施すると、補助金ありきの事業設計に陥る恐れがあるため、平成30年度からは、「新規」、「初期」、「継続」の部門を設定し、補助率等を変更。また、審査会にて今後継続して助成するかの判断も実施。



42. ひだプラすの運営支援

【目的】	前身である「飛騨市まちづくり協議会」からリニューアルを図り、市内のまちづくり団体を“つなぐ”ことを目的としてH28年11月に設立。
【実績】	SNSの活用やプレゼンなどまちづくり活動のためのセミナーを定期的に開催。また、市内まちづくり団体へのアンケートを実施し、各団体の現状把握に努めるとともに、交流の場の提供を実施。また、小さなまちづくり応援事業の審査会・報告会の運営を実施。【セミナー開催 H28：3回 H29：2回】
【決算額】	H28：218千円 H29：605千円
【課題】	大きなイベントを開催することが目的ではないため活動が伝わりづらい。このため、平成30年度は、広報ひだやHPで活動内容をPRする。また、横の繋がりを強くする為「まちづくり塾」と題し、市内各団体の交流会を年6回開催予定。



43. 飛騨みんなの博覧会の開催

【目的】	市内に眠っている魅力ある地域資源を掘り起こして体験プログラム化し、期間限定の体験博を開催することで、市民の活躍機会の創出を通じて地域の活性化を図り、あわせて滞在型観光を推進する。
【実績】	地域おこし協力隊員が事務局を担当。プログラム作成のセミナー等を実施しながら各プログラムの運営をサポートし開催。30分で満席となるなど好評を得た。【プログラム数/参加者数 H28：10/163人 H29：35/356人】
【決算額】	H28：3,946千円 H29：4,248千円
【課題】	新たな体験メニューの掘り起しが必要。このため、平成30年度は、秋・冬の2回開催とし、この時期だけの新たな魅力あるプログラムの発掘し、より多くの方に楽しんでもらえるよう開催する。



44. 大人の社会科見学ツアーの開催

【目的】	日常ではなかなか訪れることがない市内企業の製造工場や上下水道施設など、一般に公開されていないコンテンツを繋ぎあわせツアー化し、新たな観光誘客の推進を図る。
【実績】	下水処理場、砂防施設、ダム、高速道路などを巡るツアーを開催。 1回目：H29.8/19、2回目：11/15、3回目：11/18 【参加者数 H29：52人（1回目41人、2回目4人、3回目7人】
【決算額】	H29：262千円
【課題】	日帰りツアー参加者が宿泊、飲食したり土産物購入するなどの経済効果の創出が課題。ツアー参加者限定の割引券の発行や、継続して複数回参加する方へ得点を設けるなど、関係人口増として取り組む。



45. 飛騨市ファンクラブの推進

【目的】	飛騨圏域外の個人、団体等に飛騨市の魅力ある情報を発信し、未永く交流の持てる関係性を構築しつつ、楽天Edyを活用した会員証や特典付き名刺を会員に配布し、市の魅力を多方面に発信する。
【実績】	会員数獲得のためSNSを活用した動画によるPRを実施し会員数増に成功。一方で、会員向けメルマガの配信や、首都圏でのファンの集いを開催し、会員の繋がりを強化。 【会員数 H29末：1,913人】
【決算額】	H28：1,154千円 H29：4,410千円
【課題】	新規会員の獲得及び会員との関係強化が課題。このため、平成30年度は、
【対策】	特典の見直しや定期的な情報発信を行うとともに、都市部でのファンの集いや市内の魅力を体感出来るツアーを実施し、飛騨市の魅力を更に発信してもらえるような仕組みづくりや話題づくりをおこなう。



46. ふるさと子ども大使

【目的】	市内の子どもたちが市内の伝統・文化・自然等を学ぶ機会を設けて、「ふるさと子ども大使」として任命し、地域に誇りと愛着をもつてもらうことを目的とする。機会があれば、市主催の行事に参加してもらいふるさとへの愛着を深めてもらう。
【実績】	市内小学4～6年生を対象に市内バスツアー「ふるさと講座」を実施。市の魅力を勉強してもらい、任命後は、ロストラインフェスティバル等のイベントに参加。 【任命数 H28：30人 H29：38人】
【決算額】	H28：106千円 H29：117千円
【課題】	継続して参加する児童もいるため、「ふるさと講座」の内容の充実を図る必要
【対策】	がある。



47. 地域間交流バスの運行

【目的】	市民に知られていない、参加したことがないイベント等について、各地域からイベント開催地にアクセスできるイベント交流バスを運行し、市民の地域間交流を促す。
【実績】	古川祭・神岡祭、各地区の花火大会、きつね火まつり等、市内の様々なイベント時に運行。 【運行回数 H29：29回】 【乗車人数 H29：415人】
【決算額】	H29：1,047千円
【課題】	イベントによっては利用者の少ない便もあったことから、便数、バスの大小について検証し、平成30年度の行事に反映させる必要がある。また、総務課管理バスの活用を進め、費用の低減を図る。



48. 高野千本桜夢公園の整備

【目的】	旧古川スキー場跡地において、市民の協働作業によりヤマザクラの植樹・管理を行い、「高野千本桜夢公園」として整備するとともに、公園そのものはもとより、整備過程もまちづくり活動の一つとして広く市内外に発信する。
【実績】	市民有志と行政で構成する「高野千本桜夢公園整備委員会」を発足させ、イベント形式により植樹・整備を実施。 •平成29年度植樹会（H29.6.4開催）4m苗30本を植樹
【決算額】	H29：1,989千円
【課題】	当該取り組みを市民主導で推進する気運の醸成
【対策】	整備委員会が主体となって取り組みを外から支える協力者を広く呼びかけ、サポーターとしてネットワーク化する。



49. 飛騨市薬草ビレッジ構想推進プロジェクト

【目的】 市内各種団体との協働により飛騨市の貴重な地域資源である薬草を活用し、市民の生活に落とし込むことにより市民の健康づくりを推進し、あわせて体験プログラムや商品の開発を行い、観光客の滞在時間の延長を図る。

【実績】 薬草フェスティバル、公民館講座や保育園、老人福祉施設等での薬草活用ワークショップ等を開催し、広く市民にPRを実施。また、新たな体験メニューや新商品の開発や、薬草園の整備、他地域との交流を実施。

【決算額】 H28 : 3,865千円 H29 : 1,620千円

【課題】 飛騨市の薬草に関する情報を入手する方法がFBしかないため、薬草活用の

【対策】 ノウハウを体験して学べる拠点と、広く発信ができるWEBサイトの構築が必要。このため、平成30年度は、拠点整備の検討とWEBサイトの制作を実施する。



50. 飛騨えごまの里推進プロジェクト

【目的】 飛騨産えごまの消費拡大と市民の健康増進につなげる農商工連携を官民一体で取り組むプロジェクト。

【実績】 平成28年度より新品種「飛系アルプス1号」の作付け奨励金の交付による生産拡大や、ロゴの作成、商標登録を実施。また、「飛騨えごまWEEK」と題し、市内飲食店でのえごま料理提供や、えごま料理教室、選別体験等のワークショップを開催。また、プラットホームとなる協議会の設立準備を実施。

【決算額】 H28 : 2,170千円 H29 : 2,208千円

【課題】 えごまオイルの高騰による飛系アルプス1号の在庫増が発生。一方で、在来

【対策】 種の生産減少によって一般販売が品薄状態となり、市内飲食・加工販売等に流通しない状況。「飛系アルプス1号」の市場流通促進と安定供給が課題。



51. 地域おこし協力隊事業

【目的】 都市部の人材を積極的に受け入れ、地域おこし活動を通じてその定住定着を図り、一方で地元住民では気付かない魅力の発掘や市内外へのPRを行うなど、地元住民と協働し地域力の維持強化を図る。

【実績】 これまで、地域支援型として2名、プロジェクト支援型として3名を受入。地域おこし協力隊を卒業後、定住に至った者はいない。現在、3名（河合町・山村・之村・薬草振興）を追加募集しているところ。

【決算額】 H28 : 9,624千円 H29 : 13,552千円

【課題】 任期終了後の定住促進のため、何らかの支援策を講じる必要性があると思わ

【対策】 れる。定住に至れば、新たな隊員の活動サポートや、更なる定住促進にもつなげられる可能性がある。



52. ふるさと納税の推進

【目的】 全国的にふるさと納税の規模が拡大していく中、飛騨市においても市の特産品を全国に広める絶好の機会と捉え、各サイトを有効に活用し更なるPR強化を図り、納税額の増加と市特産品のPRをおこなう。

【実績】 ふるさと納税支援サイトの拡充を行い、各サイトの強みを活かしたPRを実施。また、返礼品の拡充にも努め、日本郵便㈱との連携による見守りサービスや東京大学への寄附など、全国的にも類を見ないふるさと納税を展開。

【寄附額】 H28 : 306,816,165円 H29 : 351,792,490円】

【決算額】 H28 : 439,035千円 H29 : 498,888千円
(うち積立金 H28 : 288,940千円 H29 : 348,847千円)

【課題】 全国の中で選んでもらうためには魅力的な商品展開をする必要があり、事業者と連携し、さらなる魅力向上と商品数の増加に取り組む必要がある。



市民の皆さまとの関わりやご意見の集約について

○市民と市長の意見交換会

市内各地区の公民館等において、市長から事業や予算の説明を行い、市民の皆さまから様々 なご意見をいただきました。

平成28年度 3月から4月にかけ、17会場で実施。1320名が参加。

平成29年度 4月から8月にかけ、11会場で実施。625名が参加。



○移動市長室・市長室開放日

市長室を開放し、市民の皆さまにお気軽にお越しいただいて、意見交換を行いました。

平成28年度 8月から10月にかけ、4回実施。52組が参加。

平成29年度 4月から8月にかけ、5回実施。18組が参加。

○各種団体との意見交換・市長講演会

ご依頼のあった各種団体等の総会や勉強会等に訪問し、市長が意見交換や講演を行いました。

平成28年度 7月から3月にかけ、26団体の会合等で講演。

平成29年度 4月から3月にかけ、18団体の会合等で講演。

○おでかけ市長室

少人数の集まりに市長が訪問し、意見交換を行いました。

平成29年度 4月から3月にかけ、18団体の会合等で講演。

○どうやなBOX

市政に対するご意見を、市役所等に設置してあるBOXに投函いただき、ご意見は必ず市長が目を通し、回答いたしました。

平成28年度 94件のご意見をいただきました。

平成29年度 64件のご意見をいただきました。

飛騨市財政状況の推移

飛騨市財政運営の基本指針

平成28年度に

「飛騨市財政運営の基本指針」を策定

※運用期間：平成28～31年度

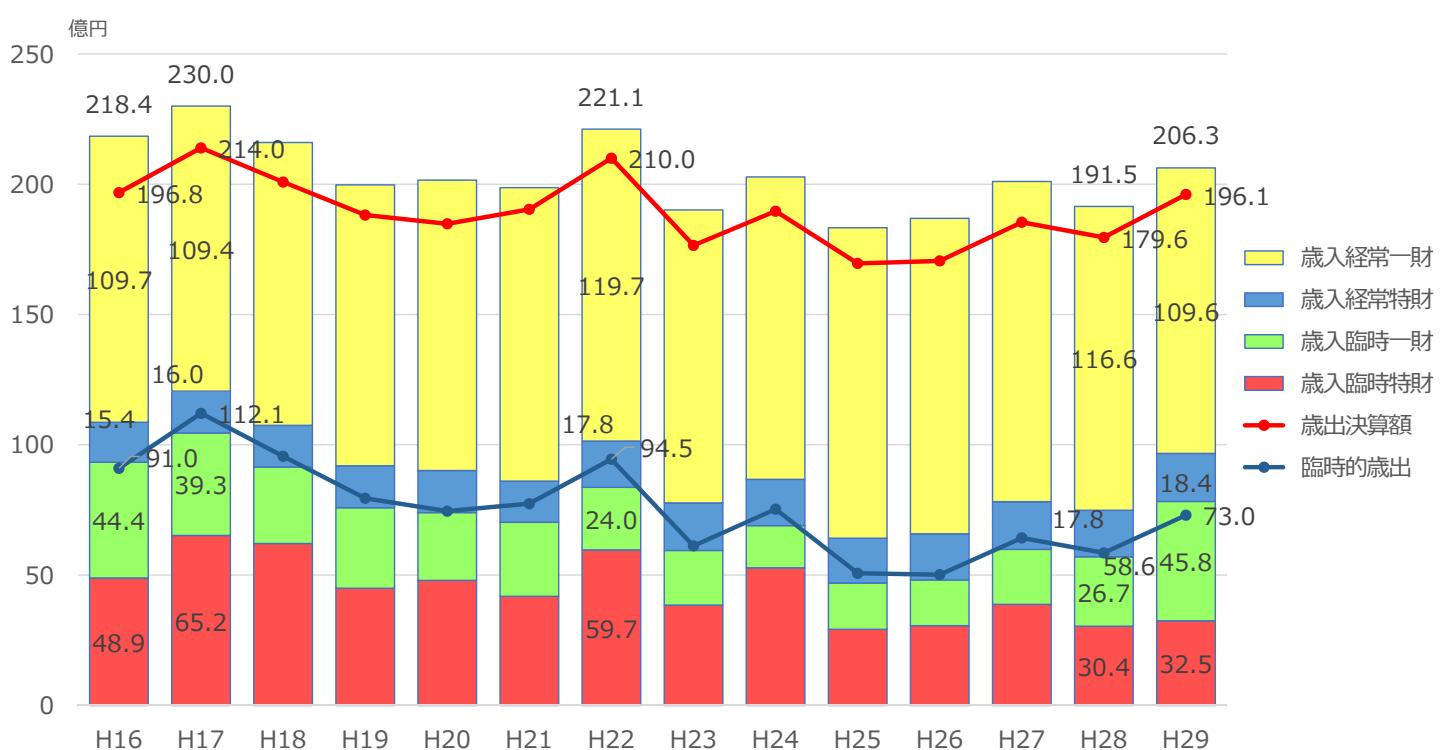


に入るを量りて出するを制す

- あらかじめ収入予測と支出の見通しを立て、その残余の財源をあらかじめ定め、その中で政策的な事業の優先順位付けを行う。

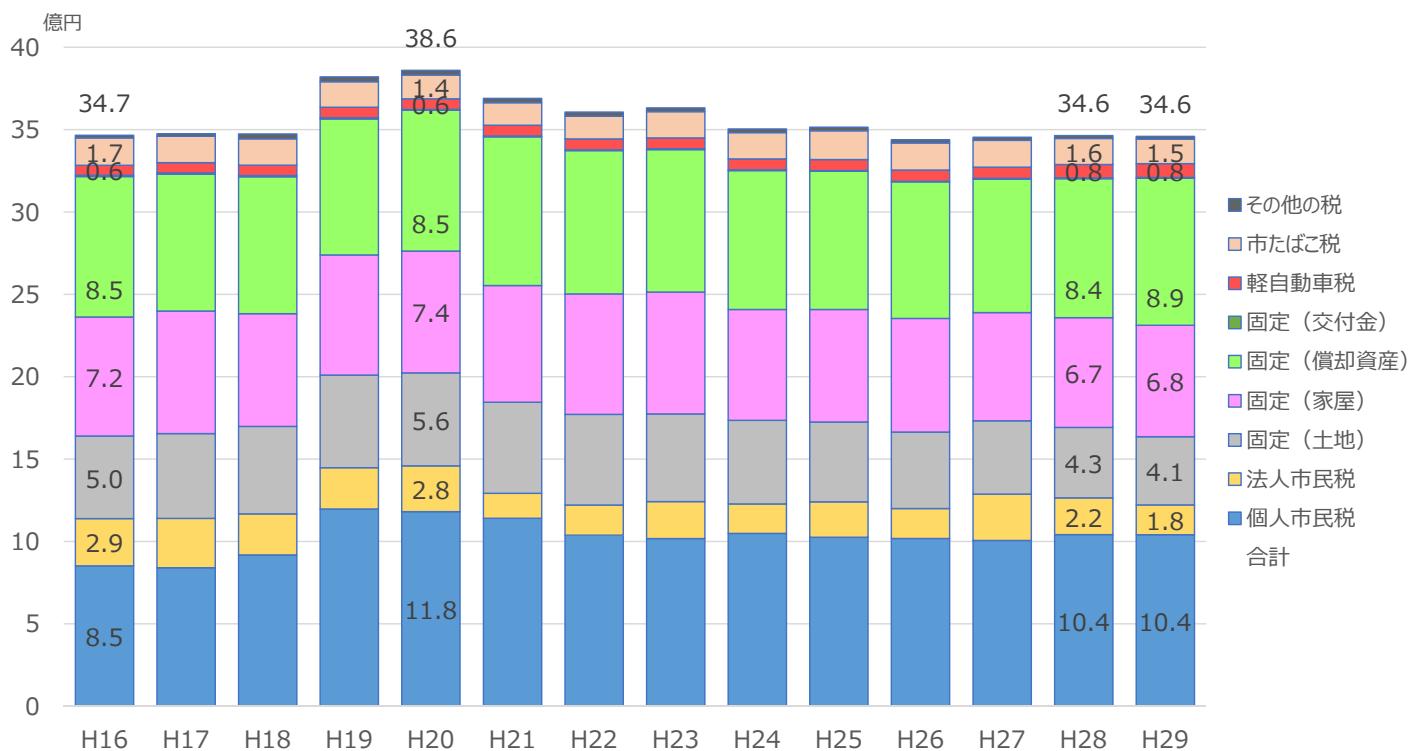
① 歳入歳出決算額の推移

普通会計の決算額は、合併以降、大型の投資事業がある年を除き、概ね200億円程度で推移しています。



② 市税の推移

歳入の根幹をなす市税は、平成26年度に若干の落ち込みがあったものの、その後ほぼ横ばいで推移しています。



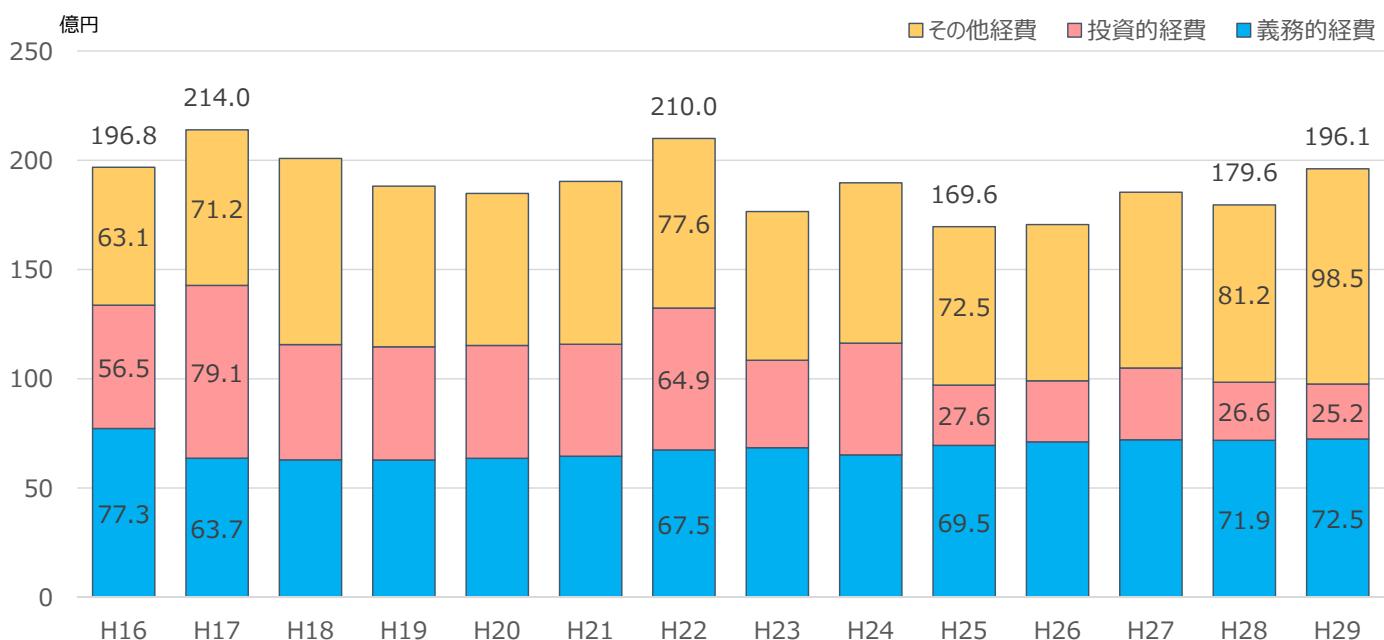
③ 性質別決算額の推移

歳出の内容を性質別に分けたデータの推移です。投資的経費が増えている年は大きな建物の建設や改修が行われています。

【義務的経費】 職員の給与等の人物費、生活保護費等の扶助費、地方債の元利償還金等の公債費

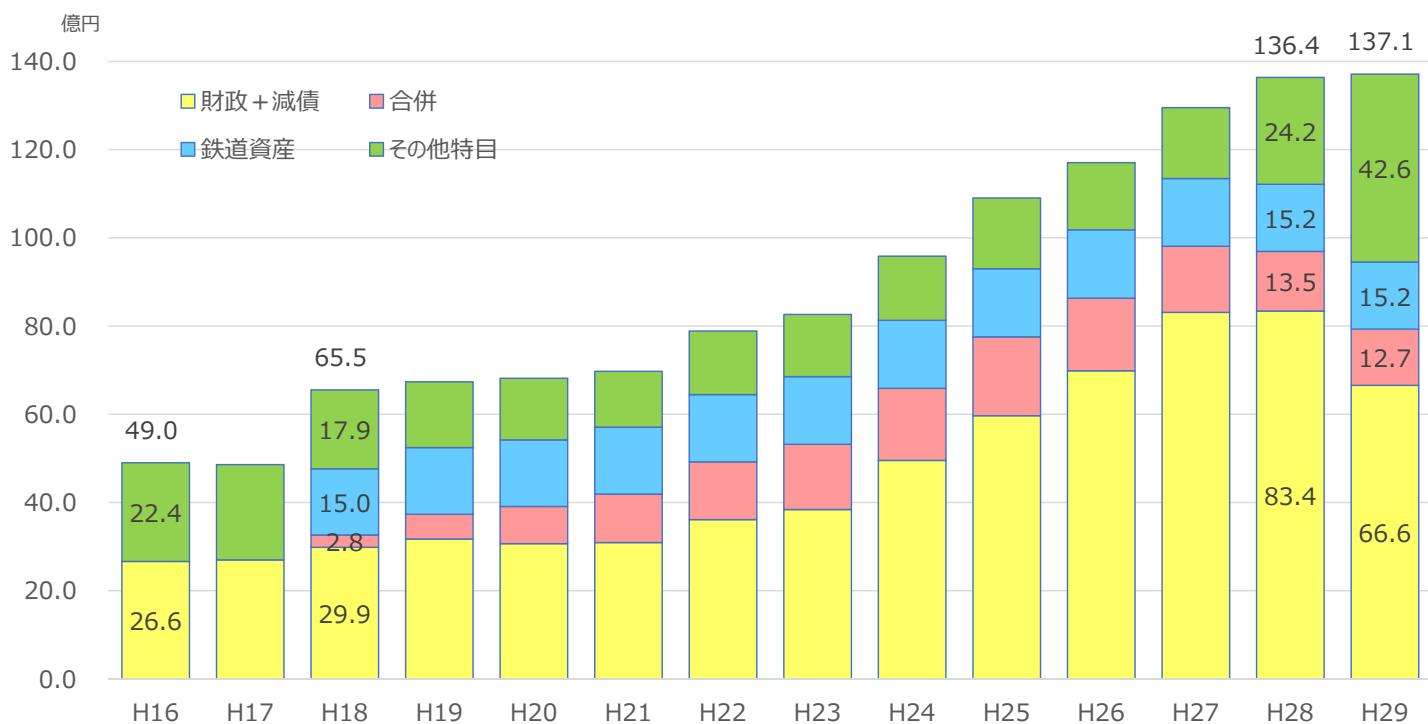
【投資的経費】 道路、橋梁、公園、学校、公営住宅の建設など社会資本の整備等に要する経費

【その他経費】 ゴミ処理、保育園、市営バス、除雪等に要する経費



④ 積立基金（市の貯金）の推移

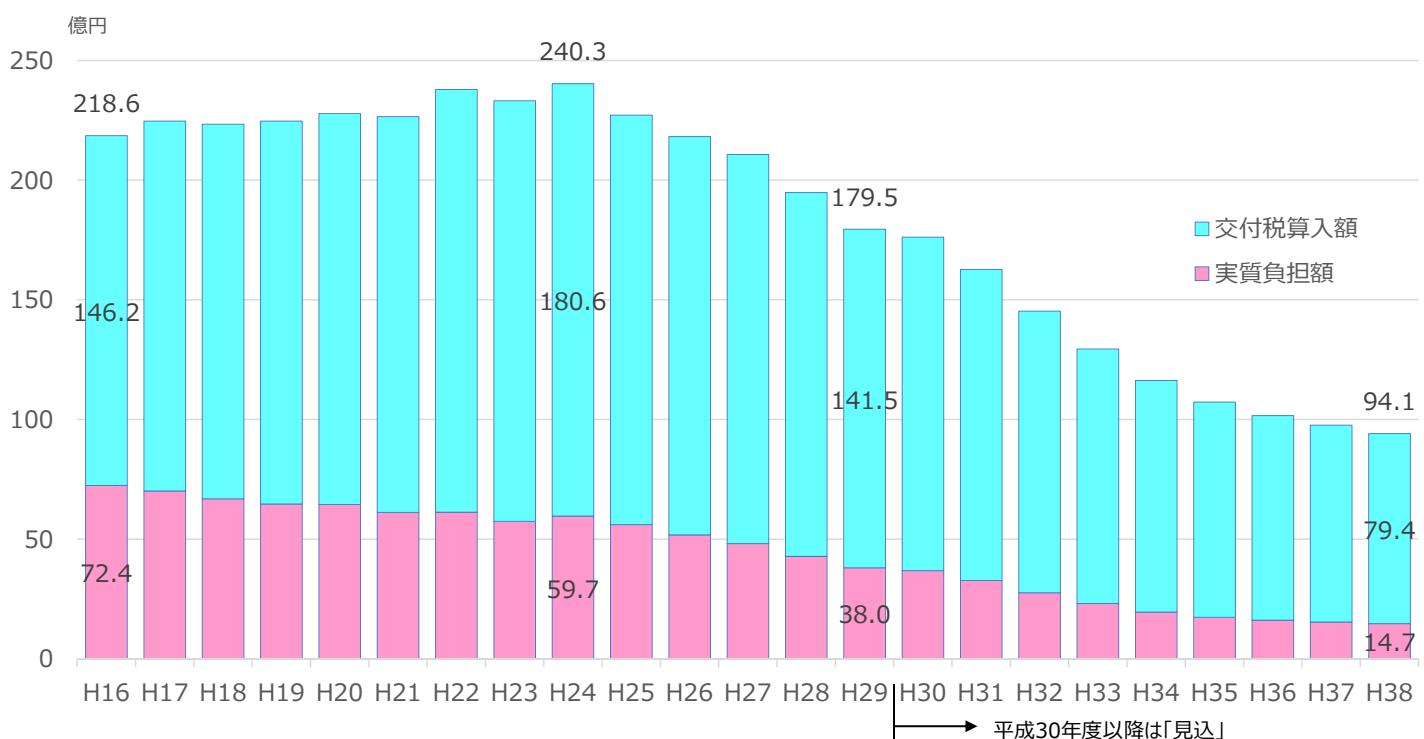
積立基金は、主に「財政調整基金」、「減債基金」、「特定目的基金」に区分され、平成29年度の飛騨市の基金残高は、全国的に極めて高い水準にあります。



⑤市債（市の借金）残高の推移と今後の見込み

◎平成24年以降、市債残高は年々減少しています。今後も市債残高はどんどん減少し、10年後の平成38年度には、現在の約半分の94億円程度となる見込みです。

◎今後もプライマリーバランス（市債の借入額と返済額の差額）の黒字を維持する方針です。



平成30年度予算 主要事業の概要



【 平成30年度予算の考え方 】

「元気で、あんきな、誇りの持てるふるさと飛騨市」の実現に向けて

都竹市政の3年目となる平成30年度予算は、市民と市長の意見交換会をはじめ、様々な場で寄せられたご意見や、議会からのご提案等を最大限取り入れるとともに、これまで進めてきた「元気で、あんきな、誇りの持てるふるさと飛騨市づくり」の政策をさらに前進させ、また、未着手の分野に新たに対策を講じるという考え方で編成を行いました。

その検討については、市政運営の方針である「融和と対話」「挑戦と前進」「交流と連携」を念頭に置きつつ、関係者の方々との意見交換を行い、案を作成したうえで、延べ60時間を超える市長と各部局との政策協議を行い、何度も練り直しを行いながら、全庁挙げて議論を進めてきました。

こうしたプロセスを経て作り上げた平成30年度予算は、ひとり親家庭や障がい児者など、弱い立場の人たちや暮らしに困難を抱える方々への支援、市民の健康づくり、防犯・防災力の強化など、「あんきな飛騨市づくり」の分野を大幅に強化するものとなりました。

さらに、これまで力を入れてきた政策も力強く推進していくとともに、さらなる拡充を図り、地域資源を活用した魅力ある拠点づくりでは新たに文学や芸術分野に光を当て、介護をはじめ、あらゆる分野での人材の確保では外国人の活用等を推進し、農林業の振興では、飛騨牛や広葉樹など飛騨市の特性を生かした取り組みを強化しました。

また、台湾・新港郷との友好提携を踏まえた事業や、北海道中川町、三重県伊賀市、長野県岡谷市とのテーマを持った交流、移住定住対策の強化も図っております。

平成30年度も、全ての市民の皆様が、安心な暮らしの中で、明るい気持ちになり、前向きに前進できる飛騨市づくりを目指して、意欲的な取り組みを全面的に展開してまいります。

平成30年度 飛騨市当初予算の政策5本柱

- 未着手であった「弱い立場の方や暮らしに困難を抱える方への支援」
- 市民と一緒に医療・介護を支えるまちをつくるための「自主的な健康づくりの推進」
- 市民の安心安全の基本である「防犯力・防災力の強化と体制整備」
- これまで取り組んできた介護職に加え、医療や産業等の「人材の確保と育成」
- 地域づくりとしての「文学や芸術など地域の自慢の発掘と磨き上げ」

目 次

【政策の柱】

あんきな飛騨市をつくる

◎ 全ての人がいつまでも安心して暮らせるまちをつくる	3
● 弱い立場の方や暮らしに困難を抱える方への支援	
● 妊娠から子育てまで切れ目の無い支援の充実	
● 障がいのある方が安心して社会参加できるまちづくり	
◎ 市民と一緒に医療・介護を支えるまちをつくる	6
● 自主的な健康づくりの推進	
● 医療・介護人材の確保と体制整備	
◎ 安心・安全を実感できるまちをつくる	8
● 防犯力・防災力の強化と体制整備	
● 快適な暮らしのための基盤づくり	

元気な飛騨市をつくる

◎ 産業を支えるヒトとモノをつくる	10
● 農林畜産業における担い手の確保・育成と農産物の販路拡大	
● 企業の人材確保・情報発信力の強化と特産品の販路拡大	
◎ 魅力あふれる観光地をつくる	12
● 飛騨市ならではの資源を使った誘客の推進	
● まちの身だしなみを整え、全ての方に優しい観光地をつくる	
● 新しい観光誘客手法の開拓	

誇りの持てる飛騨市をつくる

◎ 飛騨市の未来をつくる	14
● 文学や芸術など地域の自慢の発掘と磨き上げ	
● 未来を支える子ども達の育成	
◎ 協働と交流が根付いたまちをつくる	15
● 協働によるまちづくりと交流の促進	

【参考】地域別事業一覧（再掲）	17
-----------------	----

【資料の説明】

新規	新年度から新たにスタートする事業	事業の主な概要	予算額
改革	昨年度までの事業内容を改め改善させた事業	新規 食事付きの夜間の子どもの居場所づくり 夜間をひとりで過ごす子どもたちを地域で支援するため、食事や学習、団らんなどを通して安心して過ごすことができる「子どもの居場所づくり」を実施します。	2,860 千円 子育て応援課 (概要書 1P)
拡充	昨年度までの事業内容を拡張・充実させた事業	事業の内容	概要書の掲載ページ
継続	昨年度までの事業内容を引き続き継続させる事業		

平成30年度予算 主要事業の概要

あんき

あんきな飛騨市をつくる

全ての人がいつまでも安心して暮らせるまちをつくる

弱い立場の方や暮らしに困難を抱える方への支援

「子どもの貧困」対策が全国的に求められる中、市のアンケートによって特にひとり親家庭を中心に暮らしに不安を抱えている現状がわかりました。このことから、子ども達が安心して暮らせるまちをつくるため、ひとり親家庭への支援を推進します。また、買い物支援など高齢者の暮らしを支える取り組みの拡充を図ります。

ひとり親家庭への支援

新規 食事付き夜間の子どもの居場所づくり

夜間にひとりで過ごす子どもたちを地域で支援するため、食事や学習、団らんなどを通して安心して過ごすことができる「子どもの居場所づくり」を実施します。

2,860 千円
子育て応援課
(概要書 1P)

新規 ひとり親家庭への介護職資格取得の支援

ひとり親家庭等の保護者が、働きながら介護職の資格を取得する際の支援を、他の一般世帯よりも手厚くし、就労へつなげると同時に、介護職不足の解消を図ります。

328 千円
地域包括ケア課
(概要書 4P)

新規 ひとり親家庭への住宅支援

住宅に困窮しているひとり親家庭へ、優先的に市営住宅や助成支援付き民間住宅を斡旋し、安心して子育てができる環境を整えます。

1,200 千円
都市整備課
(概要書 2P)

新規 「ひとり親家庭のしおり」の作成

税(料)・手当・年金・保健など分野別にまとめた、探しやすく見やすいしおりを配布し、窓口等で相談しづらい方へ各種制度の周知を行います。

ゼロ予算
子育て応援課

新規 託児付きのひとり親家庭等応援講座の開催

市独自で託児付きのパソコン教室（初級・中級）、簡単に作れる料理教室を開催し、ひとり親家庭等の保護者の就職・生活を応援します。

650 千円
子育て応援課
(概要書 3P)

3補拡充 給付型奨学金制度の推進

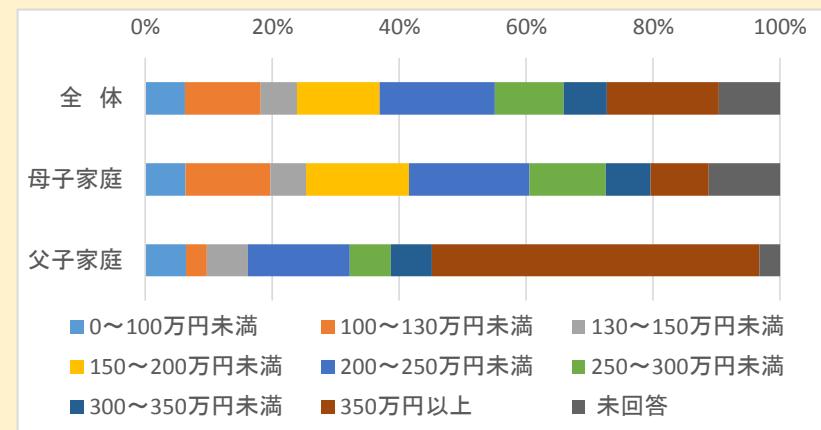
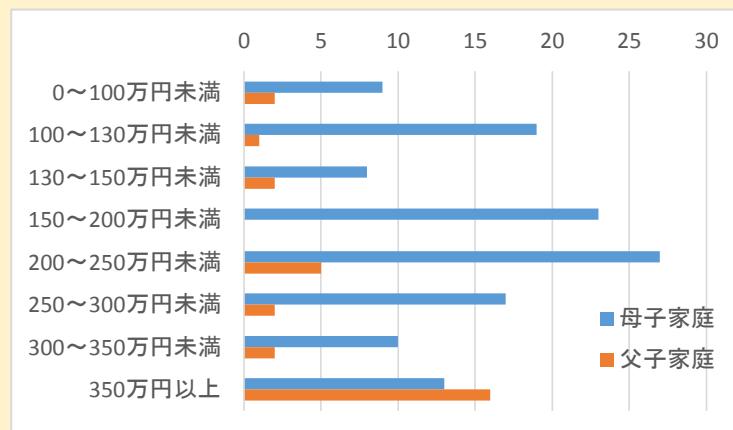
教育の機会均等の観点から、児童扶養手当受給資格を有するひとり親家庭等も新たに対象とし、事業を推進します。

88,000 千円
教育総務課
(概要書 5P)

ひとり親家庭へのアンケート結果より

平成29年度に実施した、ひとり親家庭の皆様へのアンケート調査の結果により、就労状況や住宅環境、教育環境など様々な分野で支援を必要としている現状がわかりました。

飛騨市ではこの結果に基づいて、暮らし・しごと・まなびの視点から複数の事業を展開し、子ども達が安心して暮らせるまちをつくります。



暮らしに困難を抱える方への支援

新規 むらしに困難を抱える方の自立につなげる就労支援

市が、短期間の収入のつなぎができる仕事を提供することで、最低限度の生活と就職活動を支援し、生活自立の助長を図ります。

487 千円
地域包括ケア課
(概要書 6P)

拡充 農業を通じた就労準備支援

農業体験や訓練等を通じて就労に必要な基礎能力を身につけることで、自立を促進します。また、新たに事業所までの交通費の実費負担分を助成します。

2,396 千円
地域包括ケア課
(概要書 7P)

拡充 むらしに困難を抱える方の相談しやすい体制の整備

生活困窮の相談は支援が困難なケース多いため、的確に支援方策に導ける専門職員を増員し、新たにプライバシーに配慮した、相談しやすい環境を整備します。

6,280 千円
地域包括ケア課
(概要書 8P)



高齢者の暮らしを支える仕組みづくり

新規 日用生活用品の買い物おたすけ便

日用生活用品を市内全域に配達するサービスを買い物弱者が利用される場合に、市が配達料の一部を助成する「宅配型」の買い物支援事業を創設します。

飛騨初

900 千円
地域包括ケア課
(概要書 9P)

拡充 買い物と語らいの場「地域複合サロン」の開設

市と生活協同組合コープぎふとの連携により、高齢者の買い物対策と語らいの場となる地域複合サロンを立上げます。

66 千円
地域包括ケア課
(概要書10P)



継続 移動販売事業の支援

移動販売車購入等の初期投資だけでなく、運行経費に対する支援も行うことで、市民がいつでも安心して買い物のできる環境を維持します。

4,360 千円
地域包括ケア課
(概要書11P)

拡充 地域見守り支援員の増員

地域見守り支援員を1名増員し、気になる世帯の個別訪問を行うとともに、災害時要援護者台帳の情報更新を行ななど、よりきめ細かな対応を行います。

6,564 千円
地域包括ケア課
(概要書12P)

継続 養護老人ホーム「和光園」の建設

設備等の老朽化が進行している「和光園」の全面建て替えを行い、高齢者の福祉環境の向上を図ります。平成31年度供用開始の予定です。

903,113 千円
地域包括ケア課
(概要書13P)

妊娠から子育てまで切れ目の無い支援の充実

核家族化の進展や地域社会の変化により、出産や育児に対する孤立感や不安感は多様性を増しています。産前から出産、育児まで切れ目の無い支援体制を整備し、安心して子育てができるよう心身のサポートを推進します。

子育て環境の充実

新規 神岡地区病児・病後児保育所の新設

病児・病後児に対する一時的な保育事業を、これまでの古川町に加えて、新たに神岡町で開設し、保護者の就労を支援します。

25,323 千円
子育て応援課
(概要書14P)

拡充 男性の家事・育児参加への啓発

これまでの女性を対象とした取り組みに加え、男性が家事・育児に参加しやすい環境をつくるため、簡単で美味しい調理を楽しく学べる料理教室を開催します。

227 千円
総合政策課
(概要書19P)

拡充 保育園のエアコン整備

これまで未満児や年少児の保育室に対し、エアコンを整備してきましたが、更に年中・年長児の保育室についても整備を行い、保育環境の改善を図ります。

11,725 千円
子育て応援課
(概要書15P)

継続 坂巻公園の部分再整備

坂巻公園の一角にある旧テニスコートを芝生広場に再整備し、小さなお子さんが安全に遊べる広場を整備します。また、東屋を設置し休憩スペースを確保します。

10,100 千円
都市整備課
(概要書20P)

新規 河合・宮川子育て支援センターへの木育ひろばの新設

現在設置している古川町と神岡町に加え、新たに河合・宮川子育て支援センター内に「木育ひろば」を整備し、木育を取り入れた子育てを推進します。

1,200 千円
子育て応援課
(概要書16P)

新規 ロタウイルスワクチン予防接種費用の助成

ロタウイルスは、嘔吐下痢などを伴う急性胃腸炎を引き起こすウイルスです。0~5歳の乳幼児が感染しやすいことから、予防接種の費用を助成します。

1,960 千円
市民保健課
(概要書17P)

新規 保育士の処遇改善

指定管理者制度により民間事業者が運営している保育園に勤務する保育士の賃金加算増額と、市臨時職員の賃金の見直しを行います。

12,500 千円
子育て応援課
(概要書18P)



産前・産後に関する支援

新規 出産直後の母親の心身ケアや育児サポート費用の助成

母親が十分休養し自信を持って育児をスタートできるよう、医療機関等が行う母親の心身ケアや育児サポート費用の一部を助成します。

980 千円
市民保健課
(概要書21P)

拡充 不妊・不育症治療費の助成

不妊・不育症治療に必要な経費の一部助成のうち、特定不妊治療の年度内の回数制限を撤廃し、経済的な負担の支援を拡充します。

6,300 千円
市民保健課
(概要書23P)

拡充 出産直後の母親健康診査の拡大

健康診査の時期を産後2週間、産後1ヶ月の2回に拡充し、身体の回復状況や授乳状況、及び精神状態の把握を行い、産後うつや新生児虐待の予防を図ります。

1,200 千円
市民保健課
(概要書22P)

拡充 高校生を対象とした女性のライフサイクルに関する講演会の開催

新たに高校生を対象とし、将来のライフプランと望ましい妊娠や出産のあり方を考え、正しい知識を身につけてもらうための講演会を開催します。

130 千円
市民保健課
(概要書24P)

障がいのある方が安心して社会参加できるまちづくり

障がいのある方とその家族が一生涯に渡り安心して暮らせるよう、生活の場となる施設の整備に着手します。また、障がいのある方が能力と適正に応じた雇用の場に就き、誇りを持って自立した生活を送ることができるよう、雇用対策を推進します。

3補新規 障がい者支援事業所の開業に対する支援

誰もが安心して地域で生活できるよう、障がい者に向けた就労の機会や居場所を提供する事業所の参入に対し、建設費等の一部を助成します。

9,600 千円
障がい福祉課
(概要書25・26P)

障がいのある方を支える施設の整備

平成29年度から以下の施設の整備に着手しています。現在の事業の進捗状況と今後の予定をお知らせいたします。

(平成30年議会において補正予算を上程予定)

【複合児童福祉施設】神岡町殿地内

- | | |
|--------|-------------|
| ● 設計業務 | 平成30年6月完了予定 |
| ● 建設工事 | 平成31年3月竣工予定 |
| ● オープン | 平成31年5月予定 |

【障がい児者日中一時支援施設】神岡町山田地内

- | | |
|--------|-------------|
| ● 設計業務 | 平成30年9月完了予定 |
| ● 建設工事 | 平成31年5月竣工予定 |
| ● オープン | 平成31年7月予定 |

新規 障がい者グループホーム等複合施設の整備にかかる設計

和光園の建て替えを機に旧施設を改修し、障がい者グループホーム、訪問看護ステーション等からなる複合施設の整備に向けた設計を行います。

13,700 千円
障がい福祉課
(概要書27P)

新規 重度障がい者への就労支援

企業等への具体的な提案を目的とし、実際に障がい者を雇用するなかで支援方法や就労体系を探り、障がい者雇用の常態化を目指します。

905 千円
障がい福祉課
(概要書28P)

新規 障がい者支援事業所への専門的な支援

障がい者支援事業所へ精神科医師等の専門的な見地からアドバイスを行い、対象者個々の特性に対応した支援の充実を目指します。

216 千円
障がい福祉課
(概要書29P)

拡充 様々な障がいを理解する講演会等の開催

様々な障がいを理解していただくための連続講座を、市民対象に新たに開催するほか、団体等の勉強会に専門家を派遣し、活動への助言ができる体制を整えます。

441 千円
障がい福祉課
(概要書30P)

拡充 発達支援センターの体制強化

保護者の依頼に基づき、教育や保育の現場に専門スタッフが訪問して、集団生活に適応するための支援方法を提案する事業を始めます。

7,283 千円
障がい福祉課
(概要書31P)

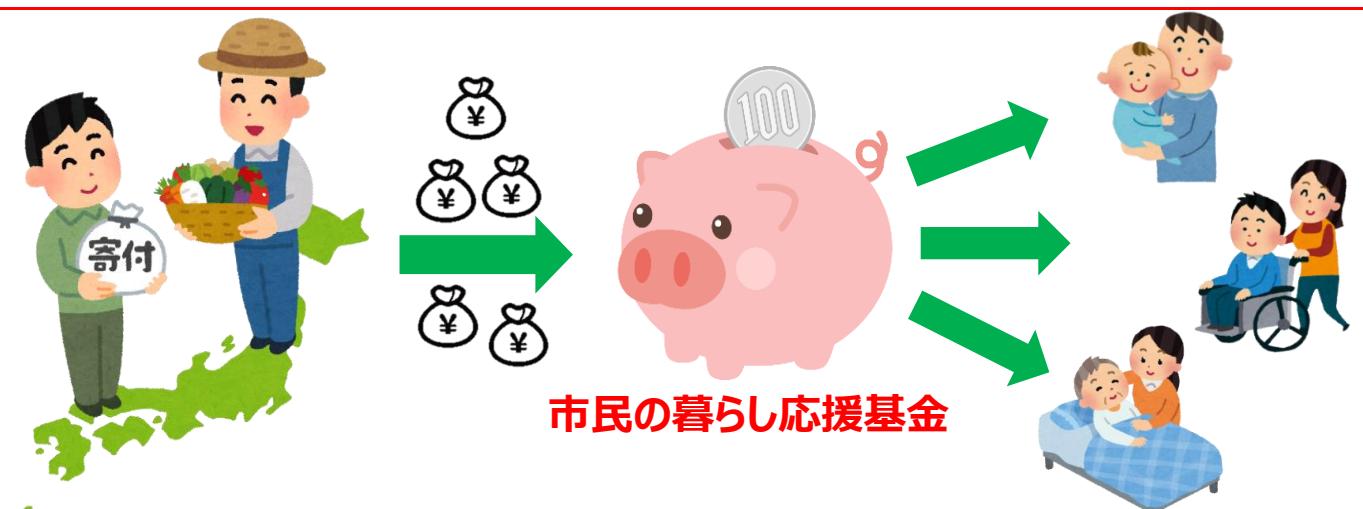
新規

ふるさと納税を活用した「市民の暮らし応援基金」と「やさしいまちづくり応援事業」の創設

1,698 千円
地域包括ケア課
(概要書32P)

全国の皆様からご寄付いただいたふるさと納税を、一旦「市民の暮らし応援基金」に積み立て、その財源を基に「やさしいまちづくり応援事業」を展開します。

「やさしいまちづくり応援事業」とは、地域における福祉のまちづくりの推進に資する活動を行う団体に対し活動費の一部を助成することで、活動団体の更なるやりがいに繋げるとともに、地域住民が皆で支え合う福祉意識の浸透を図るもので



市民と一緒に医療・介護を支えるまちをつくる

自主的な健康づくりの推進

医療と介護サービスの持続を図るために、全市民で地域の医療・介護を支える体制が必要です。このため、市民の役割としての「市民自らが自分の健康を作る」ための環境を整備し、全ての市民が健康になるまちづくりを目指して、飛騨市健幸まちづくり構想の推進を図ります。

自主的な取り組みの推進

拡充 富山大学と連携した「飛騨市健康まちづくりマイスター」の養成	拡充 まめとく健康ポイントの利用拡大
地域の健康づくりに資する市民活動を創出する中核的人材「飛騨市健康まちづくりマイスター」養成講座を飛騨市で開催し、市民レベルのリーダー育成を推進します。	健康づくりの取り組みをポイント化し、商品券等と交換できる仕組みを継続し、働く世代への訴求強化のため、市内在勤者を新たに対象者とし、事業を推進します。
拡充 クアオルト健康ウォーキングの普及推進	拡充 自主的な健康づくりのための器具支援
これまでの取り組みを推進するためガイド協会を設立し、定期的なウォーキング会を開催するなど、森林空間を活用したウォーキングを推進します。	いきいき券の代わりに、トレッキングポールや万歩計など歩行補助用具等の支援を選べる制度を新たに導入し、自主的な健康づくりの活動を支援します。
拡充 ノルディックウォーキングの普及推進	
これまでのウォーキング教室を継続して行うほか、新たに推奨コースを設定し、マップを作成することで個人でも気軽にウォーキングができる環境を整備します。	

生活習慣の改善

新規 栄養バランスに配慮した配食事業	拡充 国民健康保険特定健診・特定保健指導の推進
栄養バランスの偏りがちな食事となっている高齢者に、食生活の見直しの動機付けを行うため、栄養バランスのとれた食事の手本を配食する事業を創設します。	メタボリックシンドロームに加えて、新たに非肥満であっても血圧、血糖値による脳血管疾患等のハイリスク者を選定し、心電図や眼底検査を行います。
新規 次世代の生活習慣病予防の推進	
生活習慣の基礎ができる乳幼児期と、一人暮らし始まる前の青年期前半を重点世代として、高血圧を予防するための減塩指導を推進します。	

医療・介護人材の確保と体制整備

これまで介護職の人材確保に、全国的にも例のない様々な施策を重層的に講じてきましたが、地域包括ケアの実現には、介護に加え医療人材の確保の強化及び在宅医療体制の強化が喫緊の課題です。そのため、医療人材の確保と在宅医療体制の強化に重点的に取り組みます。

医療人材の確保と育成

新規 患者と家族を支える「里山ナース」の育成	新規 地域医療を学ぶ最適環境の調査
病院の枠を超えた連携により地域包括ケアを推進する「里山ナース」を市民病院看護師の中から認定し、看護師の意識向上と人材の確保・育成を図ります。	研修医が地域医療を学ぶ最適な学習・住環境を備えた宿舎の整備にかかる調査を行い、「地域医療を学ぶ最高の研修フィールド・飛騨市民病院」を目指します。
拡充 医療専門職のU・Iターン就職の奨励	拡充 二次医療圏医療提供体制の整備
看護師や理学療法士などの専門職がU・Iターン就職した場合や、学生が市内医療機関でアルバイトをした場合に奨励金を交付します。	飛騨医療圏域の基幹病院である高山赤十字病院と久美愛厚生病院の医師確保を支援します。

在宅医療体制の整備

新規 在宅医療推進のための地域看護体制の充実

飛騨市内の看護師が交流し連携を強化する機会を創出するとともに、潜在的有資格者を発掘します。

436 千円
地域包括ケア課
(概要書45P)



新規 ICTツールを活用した在宅医療・介護の連携推進

パソコン、スマートフォンやタブレット等を活用した医療・介護連携を推進するため、医療機関等への導入を支援し、質の高い在宅ケアサービスの提供体制を整備します。

900 千円
地域包括ケア課
(概要書46P)

新規 貸出用たん吸引機の購入費助成

在宅療養中の高齢者世帯のたん吸引機の購入について費用の一部を助成し、安心して在宅療養を継続できるよう支援します。

75 千円
地域包括ケア課
(概要書47P)

介護人材の確保と育成

新規 外国人介護人材の受け入れ支援

外国人介護人材の受け入れに係る現地面接の渡航費用や日本語研修などの事業所負担を軽減します。

430 千円
地域包括ケア課
(概要書48P)

拡充 特養夜勤者の更なる処遇改善

介護職員の夜勤手当の増額について、法人独自の負担も交えながら現状以上に手当の増額を図ろうとする法人に対し、新たに支援を拡充します。

5,516 千円
地域包括ケア課
(概要書51P)

拡充 介護福祉士のU・Iターン就職の奨励

圏域外で介護福祉士として働く質の高い優秀な人材に飛騨圏域へ帰ってきていただくため、就職奨励金の交付や、賃貸住宅の家賃の一部を支援します。

320 千円
地域包括ケア課
(概要書49P)

拡充 介護事業所の人材確保支援の推進

複数の介護事業所が合同で地域イベント等に出展し、仕事の魅力など広く市民等に発信する事業を新たに支援します。

650 千円
地域包括ケア課
(概要書52P)

新規 介護の仕事への興味関心づくり

幅広い世代を対象とした介護施設等を見学するツアーを開催し、介護の仕事に興味関心を持つもらうきっかけを作ります。

210 千円
地域包括ケア課
(概要書50P)

拡充 介護ロボットの導入支援の促進

介護職の身体負担を軽減するため、市内事業所の積極的な先進介護機器等の導入を支援し、補助額と対象数を拡大します。

600 千円
地域包括ケア課
(概要書53P)

介護予防事業の強化

拡充 リハビリ専門職による介護予防の強化

市の誘致で平成30年4月に開業するリハビリ事業所と連携し、リハビリ専門職による市民向け講座や、他職種との連携により介護予防を強化します。

132 千円
地域包括ケア課
(概要書54P)



在宅介護の支援

継続 重度介護やダブルケアの在宅介護支援

重度要介護者を在宅介護する家族に対し、応援手当を給付し、更に、同一家庭で2名以上の介護を行っている家族介護者に対しては手当を加算します。

18,000 千円
地域包括ケア課
(概要書56P)

継続 在宅介護の排泄介助負担の軽減

福祉用具購入費の上乗せ支給により、水洗ポータブルトイレの普及を図り、在宅介護者の負担軽減を図ります。

5,040 千円
地域包括ケア課
(概要書57P)

安心・安全を実感できるまちをつくる

防犯力・防災力の強化と体制整備

飛騨市は、刑法犯認知件数は県下最小数ではあるものの、飛騨古川駅前などの窃盗や器物損壊が発生しています。このことから、防犯強化に市全体で取り組み、犯罪ゼロのまちを目指します。また、防災対策では、自助・共助をリードし地域の防災活動の中心となる人材の育成と活動体制の強化を図ります。

防犯体制の強化

新規 防犯カメラの設置及び購入の助成

不審車両等を監視するため、市内主要箇所に防犯カメラを設置します。また、区・自治会等が防犯カメラを設置する際に助成を行います。

飛騨初

4,780 千円
危機管理課
(概要書58P)



改革 地域の防犯力向上のための支援

夜間の防犯に必要な防犯灯の維持軽減のため、平成29年度までの期間限定でLED化費用の支援を行ってきましたが、期限を撤廃し、補助を継続します。

2,575 千円
総務課
(概要書59P)

地域防災力の強化

拡充 防災士の育成拡大の推進

飛騨市において防災士取得のための研修講座を独自開催するとともに、飛騨市防災士会（仮称）を立ち上げ、組織的活動の基盤を作ります。

2,838 千円
危機管理課
(概要書60P)

新規 災害時避難施設におけるWi-Fi環境の整備

災害発生時に旧町村単位の拠点避難所となる施設にWi-Fi環境を整備し、有事における情報収集・発信手段の拡充を図ります。

1,594 千円
管財課
(概要書63P)

拡充 地域消防力の強化

実践的な消防訓練を新たに実施し、あわせて消防設備・車両の充実を図ることで地域消防力を強化します。また、子どもの頃から命の大切さを学ぶ事業も行います。

45,209 千円
消防本部
(概要書61P)

新規 防災備蓄品の医療機関等への配備

災害弱者を守るため、新たに病院、福祉施設等を備蓄場所として指定し、食糧等を配備して入院患者、入所者等の安心を確保します。

45,559 千円
危機管理課
(概要書64P)

新規 古川地区洪水ハザードマップの作成

古川地区について、安全に避難できるよう避難施設等の内容を反映した洪水ハザードマップを作成し、洪水被害低減を図ります。

446 千円
危機管理課
(概要書62P)

新規 災害時捜索用ドローンの配備

市内の各消防署にドローンを配置し、災害時等の状況把握、行方不明者の捜索等を行い、迅速な活動を実施することにより、市民の安全確保を図ります。

2,404 千円
危機管理課
(概要書65P)



新規 Jアラート受信機等の整備

市のJアラートの警報受信機を新型に更新し、緊急情報の伝達時間の大幅な短縮を図ります。

5,865 千円
危機管理課
(概要書66P)

新規 防災行政無線の長寿命化

整備から17年が経過し、老朽化が進んでいる親局操作卓や各振興事務所の遠隔制御装置等について、安定的に使用するために機器を更新します。

37,807 千円
総務課
(概要書67P)

拡充 救急活動体制の強化

気管挿管、薬剤投与、処置拡大を行える認定救急救命士の養成に加え、新たに自動式心臓マッサージシステムを各署に装備します。

15,170 千円
消防本部
(概要書68P)

快適な暮らしのための基盤づくり

暮らしの根幹である住まいなどの環境整備や生活に密着した道路、水道網を整備し、市民の皆様の安全で安心な暮らしの維持・向上と経済循環の促進を図ります。また、市民の皆様の利便性向上のため、市役所の窓口体制等について改善を図ります。

快適な住環境の整備支援と経済循環の促進

改革 住宅の新築・購入に対する助成金の拡充

現行の40歳未満の年齢要件を廃止し、住宅を取得した方は誰でも助成金を受けられる制度に拡充し、移住世帯については改修もあわせて支援します。

35,000 千円
都市整備課
(概要書69P)

改革 住宅性能向上を目的としたリフォーム補助金の創設

市内に居住している個人の住宅において、省エネや安全性など住宅性能が向上するリフォームを支援し、あんきで暮らしやすい住まいづくりを推進します。

82,500 千円
都市整備課
(概要書70P)

※上記2事業の創設により、「飛騨市三世代同居世帯等支援事業補助金」は平成29年度末をもって廃止いたします。

環境対策の強化

新規 飛騨市の豊かな自然環境の保全

環境に大きな影響を与える施設等の市内進出について、専門家や学識経験者を交えたワーキンググループを組織し、自然環境保全について研究を行います。

500 千円
環境課
(概要書71P)



拡充 ごみの不法投棄防止対策

悪質な不法投棄行為者への対策として、監視カメラを不法投棄が繰り返されている場所に新設し、不法投棄防止対策を強化します。

1,280 千円
環境課
(概要書72P)

拡充 ごみ減量化の推進

リサイクル可能な新聞や雑誌などの資源物を出しやすいように、24時間対応の回収箱を新設し、利便性の向上とゴミの資源化を推進します。

8,700 千円
環境課
(概要書73P)

生活の維持・向上の推進

継続 石綿管交換による水の安定供給

市内に一部残っている石綿管について、管の破損事故により市民生活に与える影響が大きい幹線導水管を優先し、順次水管の更新を行います。

38,906 千円
水道課
(概要書74P)

新規 税関係証明書発行窓口の時間延長

毎年6月に申請する児童手当や就学支援金等に添付する税務証明書等の発行業務を、6月上旬の開庁日に限り、時間を延長して行います。

ゼロ予算
税務課
(概要書78P)

新規 上水道施設整備計画・飛騨市水道ビジョンの策定

持続可能な上水道事業の実現を目的に、具体的で実践的な更新計画を策定し、今後の効率的な施設更新を図ります。

10,000 千円
水道課
(概要書75P)

継続 生活を支える道路・橋梁の整備

市民生活を支える道路の改良、交通安全・防災対策や老朽化した橋の補修を行うとともに、地域要望や必要性・緊急性を判断し、きめ細かな道路修繕を行います。

548,400 千円
建設課
(概要書79~81P)

新規 総合的な下水道地震対策の推進

古川浄化センターや下水道管路の耐震補強計画や、避難所指定されている市有施設等での被災時のマンホールトイレシステムの計画を策定します。

20,435 千円
水道課
(概要書76P)

継続 市道等の安定的な除雪

除雪機械や消融雪装置、凍結防止剤散布等による道路除雪を行うとともに、老朽機械の更新と、幅員の狭い道路に対応した小型除雪機械の新規導入を行います。

401,425 千円
建設課
(概要書82P)

拡充 飛騨市ケーブルテレビインターネット高速プランの追加

平成29年度に実施したモニター調査の結果から、新たに50Mbpsプランを追加設定し、より快適なネットライフに資するサービス提供を開始します。

ゼロ予算
管財課
(概要書77P)

コンビニエンスストアで納付できる公共料金が増えました

これまで飛騨市の公共料金のうち、税関係がコンビニエンスストアで納付が可能でしたが、平成30年4月から、新たに国民健康保険料と上水道使用料、下水道使用料もコンビニエンスストアにて納付が可能になります。

(コンビニエンスストアで納付可能な公共料金)

- 市・県民税
- 固定資産税
- 軽自動車税
- 国民健康保険料
- 上水道使用料
- 下水道使用料

産業を支えるヒトとモノをつくる

農林畜産業における担い手の確保・育成と農産物の販路拡大

農業等従事者の高齢化が進み担い手が不足する中で、今後も維持・発展させるためには、新規就農者の確保や担い手の育成、所得向上対策など様々な課題を解決する必要があります。このため、研修施設の建設支援や新たな人材確保対策のほか、飛騨市産農作物の振興と販路拡大を推進します。

畜産業の振興

新規 (仮称) 飛騨牛研修・繁殖センター開設の支援 県内初

県・市・農業協同組合の連携で、研修・繁殖センターを市内に整備し、新規就農者の育成と繁殖雌牛増頭による地域内生産体制の強化を図ります。

11,404 千円

畜産振興課
(概要書83P)

拡充 飛騨牛増頭事業の推進

県内の優良種雄牛遺伝子を継承する雌牛の保留・導入に対しての助成を拡充し、また、増頭分に係る繁殖雌牛の導入経費の一部を補助します。

21,500 千円

畜産振興課
(概要書84P)

新規 畜産農家の独立就農を支援

畜産独立就農者は、巨額な建設資金及び運転資金が必要であることから、牛舎等にかかる固定資産税相当額の助成を行い、新規就農者の確保を図ります。

1,396 千円

畜産振興課
(概要書85P)

継続 効率的な乳用後継牛の増頭支援

市内酪農家が飼育している乳牛への雌雄判別精液の交配を促進し、乳用雌牛を増頭とともに乳用後継牛の確保を図ります。

600 千円

畜産振興課
(概要書86P)

新規 圃場の地力増進による収量増加の促進

高品質堆肥の活用に要する費用の一部を助成し、圃場の地力増進を促すことで収量の増加を図り、地域内資源循環型農業を推進します。

2,000 千円

畜産振興課
(概要書87P)

市内産農産物の販売促進

拡充 飛騨市産米のPRと販路拡大

楽天株式会社の社員食堂のご飯を、1週間限定で「飛騨市産コシヒカリ」にし、モニタリングを行うとともに、結果を踏まえた販売戦略を楽天と連携して進めます。

1,070 千円

農業振興課
(概要書88P)

新規 「奥飛騨山之村寒干し大根」の販売促進

GI取得等によるブランドロイヤリティを高めていくため、市内流通を活発化させるための試食会やツアーの開催、パッケージデザインの一新に取り組みます。

565 千円

農業振興課
(概要書89P)

拡充 飛騨産えごまの振興推進

従来の作付け奨励金に加え、生産出荷工程の省力化と実のまま市内流通させる際の品質向上のため、えごま選別機の導入を行います。

5,380 千円

農業振興課
(概要書90P)

新規 宮川ミョウガの振興と栽培調査

宮川町で栽培されてきたミョウガの良さを市民に広く周知するため、料理試食会等を開催するほか、市内全域に生産拡大するための適地検証を行います。

100 千円

農業振興課
(概要書91P)

拡充 伝承作物の振興拡大

新たな作物の調査・認定と、既に認定された品目の標高や地域を変えた試験栽培を新たに実施し、栽培や消費の拡大に取り組みます。

635 千円

農業振興課
(概要書92P)

担い手の確保・育成と圃場整備

新規 中高年新規就農者の支援

新規で農業を始める中高年の帰農者に、農機具や施設等の導入費用の一部助成と、就農時の生活安定のための給付金を交付します。

2,000 千円
農業振興課
(概要書93P)



拡充 小規模な圃場整備の支援

給排水機能及び暗渠排水機能を有さない農地について、今後永続的に営農していくための圃場整備を目的とした工事費の一部を新たに助成します。

4,600 千円
農業振興課
(概要書94P)

拡充 後継者の就農支援

経営の不安定な新規就農者に対し、給付金を交付していますが、対象年齢を45歳から55歳未満に引き上げ、更なる新規就農者の増加を図ります。

1,000 千円
農業振興課
(概要書95P)

新規 古川町是重地区圃場整備のための調査

圃場整備事業申請のための基礎調査を実施するとともに、地域農業の将来を考える勉強会を実施し、持続可能な営農形態の構築に取り組みます。

7,000 千円
農業振興課
(概要書96P)

拡充 若手農業者の交流機会の拡充

農業者との交流や意見交換会を充実させ、飛騨市の農業ビジョンを語り合い、意気込みのある若手農業者の思いをつなぎ、課題の共通認識を図ります。

344 千円
農業振興課
(概要書97P)

林業の振興

新規 森林活用推進自治体との「姉妹森」連携

北海道中川町と、森林活用に関するノウハウ共有や事業の共同実施に関する姉妹森協定を締結し、関係者の相互交流や首都圏での共同フェアを開催します。

県内初

1,779 千円
林業振興課
(概要書98P)

新規 森林施業安全対策講習・研修会の開催

針葉樹よりも難しい広葉樹の伐倒技術を習得できる研修を企画・開催し、広葉樹のまちづくりを支える林業従事者を育成します。

1,404 千円
林業振興課
(概要書102P)

拡充 飛騨市産広葉樹材のブランド化と活用の推進

これまでの地域内活用の取り組みに加え、市内木工職人等との協働により、消費者の目線で森から商品までの流れを知るツアーの試験実施を行います。

8,898 千円
林業振興課
(概要書99P)

拡充 飛騨ジビ工の普及促進

飲食店等関係者を対象として、狩猟や有害捕獲などの実態を知るほか、先進地視察を通してジビ工活用を参加者で考えるツアーを新たに実施します。

500 千円
林業振興課
(概要書103P)

新規 市有林の整備と活用

山林の調査とその結果に基づく施業計画を策定・実施し、市の財産である市有林の経済的価値の向上と健全な森林経営を目指します。

11,391 千円
林業振興課
(概要書100P)

拡充 木育推進「おもちゃ学芸員」の育成

おもちゃ学芸員を新たに2名養成するとともに、既に受講済のおもちゃ学芸員を中心としたセミナー・ワークショップの開催など、活躍の機会をつくります。

387 千円
林業振興課
(概要書104P)

拡充 民有林整備の支援

広葉樹林の間伐及び主伐と伐採木の搬出、運搬を新たに支援対象に加えて補助金を交付し、林業生産活動が継続的に実施される仕組みを整えます。

30,000 千円
林業振興課
(概要書101P)

拡充 有害鳥獣個体数調整の実施

今後増加が懸念されるニホンジカによる被害を未然に防止するため、狩猟期における捕獲報奨金を拡充し、個体数の調整を行います。

11,849 千円
林業振興課
(概要書105P)

企業の人材確保・情報発信力の強化と特産品の販路拡大

地域外からの所得獲得のため、商品のブラッシュアップによる地域外での販路拡大と、あわせて事業者の経営力やマーケティング力の向上を推進する取り組みを長期的に行います。また、依然続いている産業人材不足に対し、未開拓分野の人材の掘り起こと、人材確保力の強化を図ります。

商品のブラッシュアップと販売促進支援

新規 ものづくり事業者の育成

バイヤー等を講師とした勉強会によるものづくり事業者の意識改革を図るとともに、首都圏でのマーケティング販売を実施し、商品のブラッシュアップを図ります。

1,998 千円
商工課
(概要書106P)

拡充 新商品開発費用の助成

パッケージデザイン料や広告宣伝費を新たに対象とし、市のプロジェクト等に関連する新商品は3年間に限り補助対象額を2/3へ拡充します。

20,108 千円
商工課
(概要書107・108P)
(予算額は「商工業活性化包括支援事業」の総額です)

新規 起業支援のための空き店舗の改修助成

市内における空き店舗の流動化を促進し、起業の支援を図るために、空き店舗所有者等が当該空き店舗の改修を行う費用の一部を助成します。

(予算額は「商工業活性化包括支援事業」の総額です)

拡充 飛騨市観光物産展の開催

北陸地域での開催を追加し、県内外の集客力のあるハイウェイオアシスや大規模イベントでの観光物産展を積極的に展開します。

1,925 千円
商工課
(概要書109P)

拡充 商談会等の出展支援の拡大

販路開拓のための商談会等の対象を、これまでの県外から市外へ拡充し、県内の展示会へ出展する事業者に対しても広く支援を行います。

(予算額は「商工業活性化包括支援事業」の総額です)

継続 飛騨市ネットショップの運営と新たな人材の育成

ネットショップ運営に必要な実践・応用のための研修を実施し、あわせて専門のスタッフを常置した飛騨市特産品のネットショップを開設します。

5,432 千円
商工課
(概要書110P)

企業の人材確保力の強化

拡充 外国人技能実習生の雇用支援

アパート等を社宅として借り上げ、住居確保する事業者への家賃補助や、現地面接にかかる渡航費用の一部を新たに助成対象とし、人材確保につなげます。

3,286 千円
商工課
(概要書111P)

新規 企業の人材確保力の向上支援

自社の魅力を認識して地域外へ効果的に情報発信し、人材確保につなげるためのセミナーや、企業に寄り添った魅力的な情報ツールの作成に取り組みます。

1,200 千円
商工課
(概要書112P)

拡充 企業の魅力的な情報を伝える就職情報誌の発行

常に新鮮な情報を伝えるため、市内高校の全生徒に加え、市外へ進学した大学生等にも市内企業に興味を持つもらえるよう情報誌の配布を行います。

1,525 千円
商工課
(概要書113P)



魅力あふれる観光地をつくる

飛騨市ならではの資源を使った誘客の推進

飛騨市の特色ある観光資源を使い、昨年度飛躍的に高まった飛騨市の知名度を継続的な誘客につなげるとともに、飛騨市にしかない強みを活かした新たな魅力の発信を行い、観光誘客の推進を図ります。

拡充 「ひだ宇宙科学館 カミオカラボ」の整備

施設の整備を継続して行うとともに、PRを効果的に行えるよう、ウェブサイトを製作し情報発信を行うなど、平成31年4月のオープンに向けた準備を行います。

257,264 千円
地域振興課
(概要書114P)

新規 道の駅宙ドーム・神岡の第二駐車場の整備

「ひだ宇宙科学館 カミオカラボ」の開館にあわせ、現在の駐車場収容台数である普通車74台に加え、新たに普通車50台分の第二駐車場を整備します。

14,700 千円
商工課
(概要書115P)

新規 飛騨古川まつり会館の展示装飾等リニューアル実施計画の策定

入館者の増を図るため、照明やパネル、展示など館全体のリニューアルや、説明の多言語化、バリアフリー化などの計画を策定します。

6,000 千円
観光課
(概要書116P)

継続 古川祭屋台曳行の支障となる電線等の移設

古川祭屋台曳行の支障となる電線等の移設や地上高を上げる工事を行い、安心安全に屋台曳行できる環境を整えます。

8,053 千円
都市整備課
(概要書117P)

レールマウンテンバイク ガッタンゴー！ 溪谷コースのオープン

平成29年度に整備を進めてきました渓谷コースが、平成30年4月にいよいよオープンいたします。

このコースは、神岡町漆山から二ツ屋までの往復です。全長6.6kmの道のりの途中には、橋梁や美しい渓谷が広がり、まちなかコースでは味わうことのできない大自然が大きな魅力です。



まちの身だしなみを整え、全ての方に優しい観光地をつくる

古川地区から他地区への周遊を強化し、滞在時間を延長させることで地域外所得の獲得向上につなげるとともに、景観等に配慮した「まちの身だしなみ」を整え、支えが必要な方や外国人観光客も含めた全ての方に優しい観光地づくりを推進します。

新規 路上喫煙禁止地区の指定

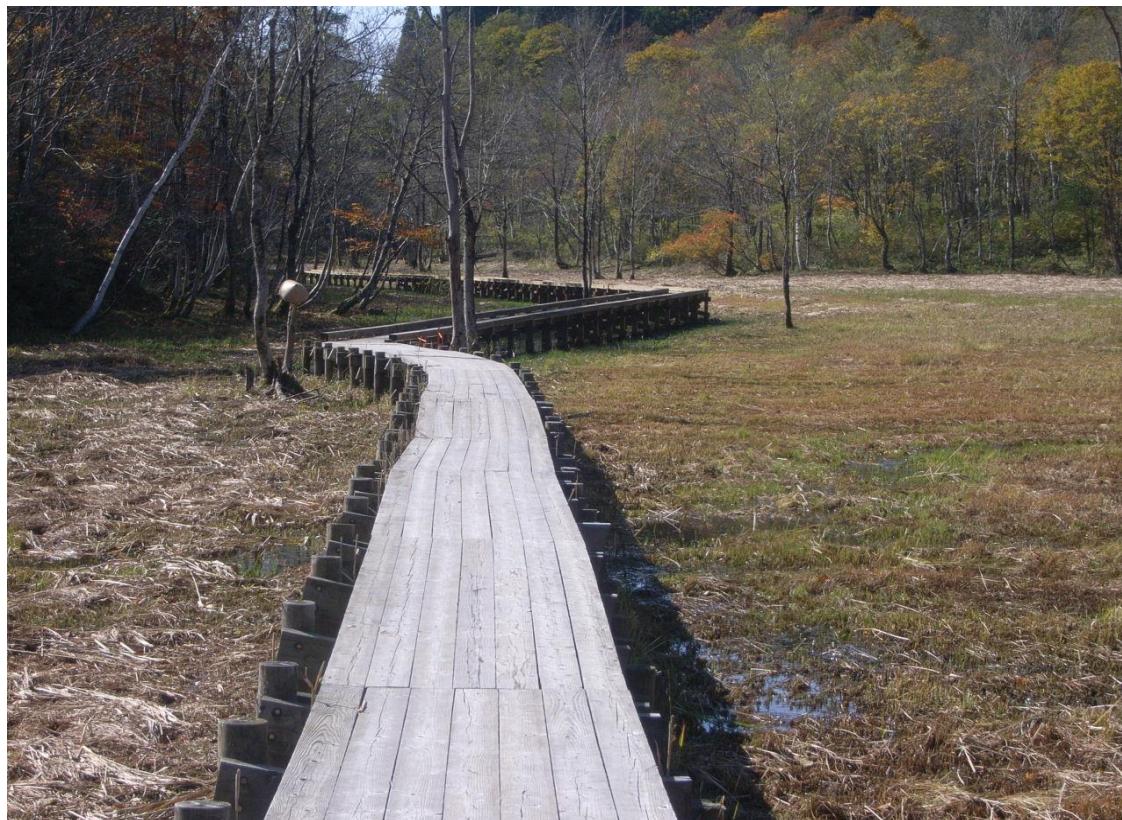
古川町壱之町、瀬戸川通りを中心としたエリアにおいて、たばこのポイ捨てや火災、やけどや煙による迷惑防止を目的とした路上喫煙規制を実施します。

310 千円
環境課
(概要書118P)

新規 看板等「まちの身だしなみ」整備の推進

古川から神岡への誘導案内看板や、天生県立自然公園の看板の多言語化を行い、あわせて、既設の老朽化した看板の撤去、修繕を行います。

2,900 千円
観光課
(概要書119P)



※ 整備中の池ヶ原湿原の遊歩道

新規 古川地区市道壱之町線無電柱化の推進

市道壱之町線の無電柱化について調査・検討を行ってきました。平成30年度から国の補助事業を活用し詳細な設計を行うなど、本格的に事業を実施します。

13,000 千円
都市整備課
(概要書120P)

拡充 古川町市街地における観光Wi-Fiエリアの拡張

古川町市街地にアクセスポイント機器を増設し、Wi-Fi利用可能エリアを拡張するほか、宙ドーム神岡でも利用可能エリアと同時利用可能人数の拡張を図ります。

4,006 千円
管財課
(概要書121P)

新規 商店街の身だしなみ整備の支援

商店街の魅力向上のため、商店街に設置してあるアーチや街灯の改修及び新規設置について、費用の一部を助成します。

20,108 千円
商工課
(概要書107・108P)
(予算額は「商工業活性化包括支援事業」の総額です)

継続 池ヶ原湿原のバリアフリー遊歩道の整備

車から降りてすぐに湿原内に入ることが出来る利点を活用し、車イスや高齢者の方でも安心して湿原内に入れるよう、バリアフリー遊歩道の整備を行います。

31,700 千円
観光課
(概要書122P)

新しい観光誘客手法の開拓

大学と連携しSNSを使った情報発信や若者ならではの意見を反映した事業など、様々な視点から新たな観光誘客の手法を研究・実施し、これまで飛騨市に訪れることが無かった方々に、飛騨市を知ってもらうきっかけを作ります。

新規 若者目線を取り入れた観光誘客の推進

大学の観光学部等と連携し、学生目線での強み・弱みの調査、SNSを使った情報発信など、若者ならではの意見を施策に反映していきます。

500 千円
観光課
(概要書123P)

継続 アニメや映画等ロケ誘致の推進と体制整備

ロケ等の誘致につなげるために、ロケターリズム協議会、アニメターリズム協会と連携し、全国の先進地事例の研究や版権処理等などを学ぶセミナーを開催します。

4,910 千円
観光課
(概要書127P)

新規 池ヶ原湿原への団体バスツアー誘致

旅行会社とタイアップしてアクセスの課題を解決し、より多くの観光客の方々の来訪と認知向上につなげます。

910 千円
観光課
(概要書124P)



新規 プレスや旅行エージェントの積極的な招聘

市側からプレスや旅行エージェントを招聘する機会を積極的に造成し、飛騨市のメディア露出や旅行商品造成を積極的に推進します。

472 千円
観光課
(概要書125P)

拡充 コンベンション誘致の推進

全国各地からコンベンションの新規獲得を推進するため、新たに市内入浴施設を活用し、入浴割引券提供による誘致と施設利用の促進を図ります。

9,970 千円
観光課
(概要書126P)

誇り 誇りの持てる飛騨市をつくる

飛騨市の未来をつくる

■ 文学や芸術など地域の自慢の発掘と磨き上げ

これまでの文化・歴史分野の掘り起こしに加え、飛騨市にゆかりのある文学や芸術の分野の発掘に着手し、市民の新たな誇りにつなげます。また、各地域にある特色ある資源の磨き上げを行い、魅力を広く市内外にPRします。

文学・芸術の研究と活用

新規 荒垣秀雄氏の功績顕彰

朝日新聞の「天声人語」を担当し、飛騨市名誉市民、東京都名誉都民である氏の功績をたたえた石碑の建立と、除幕イベント等の支援をおこないます。

1,320 千円
文化振興課
(概要書128P)

継続 飛騨市にゆかりのある芸術家の作品展開催

飛騨市美術館において、飛騨市出身のはり絵作家である井上あき子氏の作品展や、写真家である細江光洋氏の作品展等を開催します。

2,051 千円
文化振興課
(概要書130P)

新規 中河与一文学資料館の移設と顕彰

中河与一資料館を山之村牧場内に移転リニューアルし、山之村を舞台とした代表作「天の夕顔」の魅力を広く伝えるとともに、記念講演会を開催します。

2,000 千円
文化振興課
(概要書129P)

歴史・文化の研究と活用

新規 「飛騨の糸引き工女」の史実調査・研究

信州の製糸産業に貢献した「飛騨の糸引き工女」にスポットを当て、岡谷市等との連携手法の構築や史実に基づく調査・研究を実施します。

4,958 千円
文化振興課
(概要書131P)

拡充 山城・埋蔵文化財の発掘調査

国指定史跡への登録を目指し、姉小路氏関連の3山城跡の発掘調査と、江馬氏関連の「傘松城」の測量調査等を実施します。

53,408 千円
文化振興課
(概要書134P)

拡充 姉小路氏城館跡の活用推進

国指定史跡への総合調査結果等を用いた、史実に基づく新たな内容のPRに加え、山城復元想像イラストを作成し、魅力を発信します。

2,123 千円
文化振興課
(概要書132P)

継続 古川祭史の研究

平成33年の「古川祭史」発刊を目指し、歴史文献の調査・研究や関係者への聞き取り等により史実の再検証を行なうほか、毎年度、報告会を開催します。

2,332 千円
文化振興課
(概要書135P)

拡充 江馬氏城館跡の活用推進

江馬氏関連山城セミナーの継続開催に加え、山城マップの作成や、室町時代の食事を再現したツアーなどを新規実施し、江馬氏城館跡の魅力を広くPRします。

2,449 千円
文化振興課
(概要書133P)

継続 伝統文化・芸能等映像のデジタル化とPR

貴重な伝統文化の映像をデジタル化保存するとともに、DVD化し、飛騨市図書館での貸し出しや、飛騨市文化財WEBサイトで動画視聴を可能にします。

300 千円
文化振興課
(概要書136P)

地域資源を活かしたまちづくり

新規 「清流みやがわ鮎」の知名度向上

清流みやがわで育った鮎の知名度向上のため、釣り客が快適に滞在できる環境の整備や、富山での販路拡大のためのイベントを開催します。

4,960 千円
地域振興課
(概要書137P)

新規 河合地歌舞伎の伝承支援

より良い環境で伝承活動が継続できるように、地歌舞伎用舞台等の整備（舞台、花道、照明）について助成をおこないます。

914 千円
地域振興課
(概要書140P)

新規 「棚田と板倉の里」の活性化

集落に残る宮川地域独特の貴重な原風景を後世に引き継ぐため、全国に広がる種蔵ファンの組織化と、芸術を切り口とした集落の活用に着手します。

1,000 千円
地域振興課
(概要書138P)

拡充 飛騨えごまの里の推進

（仮称）飛騨えごまの里推進協議会を立ち上げ、市内消費拡大や、「飛騨えごまWEEK」の実施、食育事業を実施し、官民一体となった事業を展開します。

1,205 千円
総合政策課
(概要書141P)

新規 飛騨まんが王国声優講座20周年記念交流事業の開催

飛騨まんが王国での声優合宿20周年を記念し、講演会や合宿の卒業生徒による読み聞かせ等のイベントを開催します。

845 千円
地域振興課
(概要書139P)

拡充 飛騨市薬草ビレッジ構想の推進

新たに薬草展示や体験等を行える拠点を整備するため、市内各団体と協議を行い、整備に必要な調査業務を行なうほか、薬草公式WEBサイトの開設をおこないます。

7,531 千円
総合政策課
(概要書142P)

未来を支える子ども達の育成

飛騨市だからこそできる保育園から中学校、高校への一貫性のある教育と、地域資源を活かしたふるさと教育を推進とともに、近年、様々な大会等で大活躍されている部活動への支援拡充を図り、子ども達が未来に向かって伸び伸びと学習できる環境を整備します。また、校舎等の改修により、子ども達の教育環境の向上を図ります。

飛騨市ならではの教育

新規 保小中連携教育の推進

保小中の12年間を見通した、系統性・連続性を踏まえた一貫性のある指導を具現し、個に徹した指導の充実や不登校児童生徒の未然防止を図ります。

302 千円
学校教育課
(概要書143P)

拡充 学校給食を活用したふるさと教育の推進

飛騨牛に加え飛騨市産コシヒカリや基幹作物を新たにメニューに取り入れ、「地域食材」の良さを改めて感じることのできる食育授業を実施します。

1,000 千円
農業振興課
(概要書146P)

新規 小学校英語教育の推進

小学校からの英語教育を推進し、発音・語彙・文法等の間違えを恐れず、積極的に英語を使ってコミュニケーションを図ることのできる子どもの育成を目指します。

5,740 千円
学校教育課
(概要書144P)

拡充 一流スポーツ選手と小学生との交流推進

一流スポーツ選手による「夢の教室」を市内全ての小学校で開催するよう拡充し、夢の実現に向けて意欲をもつて具体的に行動できる子どもの育成を図ります。

1,410 千円
学校教育課
(概要書147P)

拡充 魅力ある地元高校づくりの推進

特色を活かした出前講座や小学生とのふれあい事業などを継続し、地域連携アドバイザーによる地域との関わりを強化した新たな取り組みを推進します。

1,937 千円
地域振興課
(概要書145P)

拡充 教職員研修及び児童生徒の体験学習の充実

教職員を対象とした研修会を継続し、加えて児童生徒支援員を新たに対象とした専門講師による研修会を実施し、支援員の資質向上を図ります。

463 千円
学校教育課
(概要書148P)

教育環境の整備

3補新規 体育館等の非構造部材の耐震化

市内小中学校の屋内体育施設について、耐震化が必要な小中6校を計画的に整備する中で、まずは2つの中学校の屋内体育施設の整備を行います。

80,933 千円
教育総務課
(概要書149P)

新規 神岡小学校の大規模な改修にかかる調査

最適な学習環境を再構築し、それに則した教室の再配置及び改修と、老朽化が著しい外壁等の改修にかかる設計業務を行います。

3,365 千円
教育総務課
(概要書150P)

拡充 部活動備品購入・大会出場への支援

これまでの大会出場支援に加え、非常に高価な吹奏楽部所有楽器について計画的な整備を行い、保護者の費用負担を軽減します。

5,000 千円
学校教育課
(概要書151P)



協働と交流が根付いたまちをつくる

協働によるまちづくりと交流の促進

他地域・団体との相互交流を積極的に進め、お互いの地域資源や人材を活用し合うことにより、各事業の相乗効果を高めます。また、市民との協働による事業の更なる推進と移住定住支援の拡充を図ることにより、市民の活力の向上と全国の飛騨市ファン拡大を目指します。

多様な交流によるまちづくり

東海初

3補新規 ふるさと納税を活用した東京大学宇宙線研究所への寄附

ふるさと納税の寄附目的「東京大学宇宙線研究所との連携推進事業」にご寄附いただいた額の3割を、東京大学宇宙線研究所若手育成支援基金に寄附します。

18,600 千円
地域振興課
(概要書152P)

拡充 飛騨市ファンクラブの交流推進

市外会員を対象に市の魅力を実際に体感してもらえるツアーを開催するほか、ファンの集いを東京他2会場で実施し、交流人口の拡大を図ります。

3,508 千円
地域振興課
(概要書154P)

新規 台湾・新港郷との友好交流の推進

台湾・新港郷との友好提携1周年を記念し、交流展覧会を開催するとともに、高校生が新港郷へホームステイするための渡航費用の一部を助成します。

4,300 千円
地域振興課
(概要書153P)

継続 組紐体験文化を通した伊賀市との文化交流

組紐体験の継続実施に加え、新たな組紐技法の習得などを通じて伊賀市と文化交流を推進するとともに、体験プログラムの質の向上を図ります。

371 千円
文化振興課
(概要書155P)

新規

飛騨市ドローン活用推進プロジェクト

1,500 千円
地域振興課
(概要書156P)

無人航空機（ドローン）は、既に様々な分野での活用が行われています。飛騨市では**6つの柱**によりドローンの活用を図り、地域の皆様や既にイベント等で活用を行っている市内団体、事業者と一緒に官民協働プロジェクトを推進します。

- ① **流葉** 流葉スキー場を、ドローンを自由に飛ばせる「飛騨流葉ドローンパーク」として整備します。東海初
- ② **危機管理** 市内各消防署にドローンを配備し、消防職員の操縦訓練を行うことにより、災害時の物資輸送や迅速な現地確認等に活用します。
(再掲：詳細は8Pを参照)
- ③ **観光** 市内各種イベントの動画撮影や市内のPR動画の撮影、流葉地区宿泊施設による宿泊パックの造成を行います。
- ④ **福祉** 手先と頭を使った高齢者の認知症予防として「ゲートドローン」の普及を行はほか、買い物弱者対策としての活用を検証します。
- ⑤ **基盤整備** トンネルや橋梁点検などの危険な作業や、測量等への活用を検証し、人材不足の解消を図ります。
- ⑥ **最先端技術** 空域管理システム「楽天AirMAP」と連携し、飛行ルートの確認等の空域管理を行います。



※ゲートドローンとは、ゲート（門）を複数設置し、その中をドローンを通過させるもので、神岡ドローン実行委員会が開発したゲームです。

新規 飛騨市まちづくり塾の開催（ひだプラス活動事業）

全国のまちづくりの先駆者や市内の団体の方を講師とした交流会を開催し、経験談や苦労話等から自らの活動のヒントを学びます。

800 千円
地域振興課
(概要書157P)

継続 小さなまちづくり活動の応援

市内団体等の自発的なまちづくり活動を公募し、事業プランの可否を市民による公開形式で審査することで、広く活動を伝えるとともに活動費用の支援を行います。

7,291 千円
地域振興課
(概要書159P)

拡充 「飛騨みんなの博覧会」の冬季間メニュー創出

これまでの秋季開催に加えて、冬の飛騨市ならではの体験プログラムを集め、主に市民の皆様に楽しんでいただけるよう冬季開催を企画します。

4,380 千円
地域振興課
(概要書158P)

拡充 高野千本桜夢公園の整備推進

ヤマザクラの植樹のほか、看板設置や災害時に園内に残された流木除去、作業道の排水対策など、今後の事業推進に必要な環境整備を集中的に行います。

5,100 千円
林業振興課
(概要書160P)

移住・定住の促進

新規 移住定住コンシェルジュの設置

移住希望者が希望するライフスタイル等に関する相談や、既に移住された方の相談相手となる移住専門のコンシェルジュを設置し、定住の推進を図ります。

1,816 千円
地域振興課
(概要書161P)

新規 空き家の家財道具処分費等への支援

空き家利活用の支障となる「家財道具処分」「相続登記」について補助制度を新設することで、所有者の負担軽減を図り空き家バンクへの登録へつなぎます。

500 千円
地域振興課
(概要書162P)

(組織の改善)

飛騨市臨時職員の処遇改善

適正な任用と勤務条件の確保を目的として**地方公務員法等が改正され、平成32年4月1日から臨時・非常勤職員制度が大きく変更**されます。飛騨市では、**全国的な制度改正に先行して**、臨時職員制度の見直しを段階的に行い、処遇の改善を図る予定です。

【見直しの内容】

- (1) 平成30年度から、呼称を臨時職員から「専門業務職員」又は「業務支援職員」に改めます。
- (2) 平成30年度から、有資格職等で人材確保が困難な専門職について賃金単価を改定します。
(平成30年度は、保育士、保健師、司書、学芸員、外国語通訳、手話通訳の単価改定を行います。)

古川地域

食事付き夜間の子どもの居場所づくり

養護老人ホーム「和光園」の建設

あんき

障がい者グループホーム等複合施設の整備にかかる設計

古川地区洪水ハザードマップの作成

(仮称) 飛騨牛研修・繁殖センター開設の支援

元気

古川町是重地区圃場整備のための調査

飛騨古川まつり会館の展示装飾等リニューアル実施計画の策定

古川祭屋台曳行の支障となる電線の移設

路上喫煙禁止地区の指定

元気

古川町市街地における観光Wi-Fiエリアの拡張

古川地区市道壹之町線無電柱化の推進

古川祭史の研究

誇り

姉小路氏城館跡の活用推進

高野千本桜夢公園の整備推進

河合地域

あんき 河合・宮川子育て支援センターへの木育ひろばの新設

誇り 河合地歌舞伎の伝承支援

誇り 「飛騨の糸引き工女」の史実調査・研究

宮川地域

あんき 買い物と語らいの場「地域複合サロン」の開設

「清流みやがわ鮎」の知名度向上

宮川ミョウガの振興と栽培調査

誇り 「棚田と板倉の里」の活性化

元気

池ヶ原湿原への団体バスツアー誘致

飛騨まんが王国声優講座20周年記念交流事業の開催

池ヶ原湿原のバリアフリー遊歩道の整備

神岡地域

神岡地区病児・病後児保育所の新設

元気 道の駅宙ドーム・神岡の第二駐車場の整備

あんき

坂巻公園の部分再整備

荒垣秀雄氏の功績顕彰

患者と家族を支える「里山ナース」の育成

中河与一文学資料館の移設と顕彰

地域医療を学ぶ最適環境の調査

誇り 江馬氏城館跡の活用推進

元気

「奥飛騨山之村寒干し大根」の販売促進

神岡小学校の大規模な改修にかかる調査

「ひだ宇宙科学館 カミオカラボ」の整備

飛騨市ドローン活用推進プロジェクト

平成30年2月

飛騨市役所 企画部総合政策課

☎ 0577-73-6558 (ダイヤルイン)

✉ sougouseisaku@city.hida.gifu.jp



平成 29 年度の地方創生に向けた国の取り組み概要について

飛騨市では、国が目指す地方創生の目標に対し、大きく 5 つの事業を実施し、国から財政的支援（地方創生交付金）を受けています。

■ 地方創生とは

- ✓ 人口急減・超高齢化という我が国が直面する大きな課題に対し、政府一体となって取り組み、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生することを目指すものです。
 - ① 「東京一極集中」の是正
 - ② 若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現
 - ③ 地域の特性に即した地域課題の解決
- ✓ 国は「地方版総合戦略」に掲げられた施策を財政面などで後押しすることで、国の目標達成を目指します。

■ 飛騨市まち・ひと・しごと創生総合戦略（飛騨市的地方版総合戦略）とは

- ✓ 人口減少克服・地方創生のため、飛騨市が 2015 年度から 2019 年度の 5 か年の政策目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめたものです。

■ 飛騨市が活用している地方創生交付金とは

飛騨市では 2 種類の国の方交付金を活用し事業を実施しています。

① 地方創生推進交付金

- ✓ 地方版総合戦略に基づく自主的・主体的で先導的な事業を、複数年度にわたり安定的・継続的に支援するため創設されたもの。
- ✓ 官民協働、地域間連携、政策間連携等の先駆的要素が含まれている事業が対象。
- ✓ 複数年度の計画とし、主にソフト事業。
- ✓ 補助率は 1 / 2。

② 地方創生拠点整備交付金

- ✓ 地方版総合戦略に基づく自主的・主体的な地域拠点づくりなどの事業について、地方の事情を尊重しながら施設整備等の取組を進める目的として創設されたもの。
- ✓ 単なる「ハコモノ行政」ではなく、地方版総合戦略に基づく取組として未来への投資の基盤につながる先導的なものでなければならないとされ、利活用方法が明確であり、それにより十分な地方創生の波及効果の発現を期待できるものが対象。
- ✓ 単年度の計画とし、主にハード事業。
- ✓ 補助率は 1 / 2。

■ 地方創生交付金を活用した事業は、効果検証し国へ報告を行います。

- ✓ 各事業毎にふさわしい具体的な指標「重要業績評価指標（KPI）」を設定し、PDCA サイクルを整備することが必要とされています。特に事業年度毎に、外部有識者等による効果検証を実施し、その結果をホームページ等で公表するとともに、国への報告を行います。

シート No.	交付金の名称	補助率	計画 年度	事業 区分	具体的事業名	事業概要	総事業費 (円)	交付金充当額 (円)	事業における目標値(重要業績評価指標・KPI)					担当課
									指標の名称	H29目標値	目標年月	実績	達成状況	
1	地方創生推進 交付金	1/2	H29 ～ H31	飛騨3市 1村・県	飛騨地域ツーリズム推 進連携事業	【飛騨地酒ツーリズム推進事業】 ①ジャパン・エキスポへの出展 ②コルマール国際旅行博への出展 ③コルマール・クリスマスマーケットへの出展 ④海外メディア招聘	988,618 (5,341,744) ()内は4市村合計	456,880 (2,465,783)	欧洲からの外国人観光客数	102,500人	H30.3	86,027人	未達成	観光課
2						【外国人観光客受入体制強化事業】 ①特区通訳案内士養成講座 ②育成・活用促進計画の策定に向けた取り組み	589,090 (3,614,328)	294,545 (1,807,164)	特例通訳案内士を利用した外 国人観光客数	377人	H30.3	886人	達成	
3					飛騨地域移住・定住促 進連携事業	①飛騨地域の民間事業者課題解決セミナーの 開催 ②飛騨「未来の地域編集部」の運営、地元ライ ターによる飛騨地域の情報発信 ③官民協働による移住戦略組織の構築、移住 コーディネーターの育成 ④首都圏での移住促進イベントの開催 ⑤移住フェアへの出展 ⑥飛騨での移住者交流イベントの開催	1,974,088 (10,762,123)	907,124 (4,943,149)	飛騨地域移住サポートセンター を通じて飛騨地域(3市1村)に 移住した者の数	551人	H30.3	430人	未達成	地域振興課
4	地方創生推進 交付金	1/2	H28 ～ H30	市単独	飛騨里山文化遺産誘客 推進プロジェクト	①里山文化遺産を広く発信するための取り組 み ②里山文化遺産を保全するための取り組み ③里山文化遺産を活用した誘客を図るための 仕組みづくり	11,656,578	5,828,289	里山の文化遺産関連経済波及 額	18,915千円	H30.3	20,848千円	達成	総合政策課 観光課 農業振興課 地域振興課
5	地方創生推進 交付金	1/2	H28 ～ H30	市単独	飛騨神岡宇宙最先端科 学パーク構想	①カミオカンデに代表される宇宙最先端科学研 究を来訪者が身近に感じることができる環境の 整備 ②住民にとって身近な研究、研究者にとって身 近な住民など両者の距離を縮め、研究を支え る国内外の研究者の滞在環境の向上	2,475,235	1,130,017	里山の文化遺産を活用した体 験プログラムの提供数	25種類	H30.3	35種類	達成	
6	地方創生拠点 整備交付金	1/2	H29	市単独	道の駅「宙(すかい)ドー ム・神岡」物販棟増築事 業	①物販棟増築工事 ②渡り廊下建設工事 ③既存施設改修工事(エントランス等) ④施工監理委託 ⑤従業員駐車場整備工事	136,404,000	65,000,000	飛騨市における年間延宿泊者 数	108,816人	H30.3	105,695人	未達成	
合						計	154,087,609	73,616,855						

地方創生関係交付金に係る事業検証シート

No. 1

事業名称	飛騨地酒ツーリズム推進事業		目的区分	観光振興					
事業目的	飛騨地域3市1村が、海外の国際旅行博への出展や首都圏プロモーションなどを官民協働にて実施することにより、国内外での地場産品の販売促進を図るとともに、飛騨地域への観光誘客の促進を図る。		実施区分	広域連携 (高山市・飛騨市・下呂市・白川村・県)					
			総事業費	988,618 円					
			交付金充当額	456,880 円					
事業概要	地酒や食に加え、フランス国内でも好評を得ているアニメ映画「君の名は。」の聖地である飛騨市をはじめとした地域巡り等をテーマに、フランスで開催されるJAPAN EXPOやコルマール国際観光旅行博、コルマール・クリスマスマーケットに出演して当該地域の認知度向上を図る。こうした当地域の強みを活かした取組を継続的に行い、欧州における知名度、信頼度の向上を図ることとし、将来的には、地域DMOや民間事業者自らが、利益率の高い特産品の販売利益を当該マーケットの出展費用に充当するなど、自己資金を捻出し、単独出展することを目指した自立的なモデル事業の構築を目指す。								
事業成果	<p>①ジャパン・エキスポへの出展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フランス・パリで開催されるジャパン・エキスポ(主にフランス国内から約24万人が来場する日本文化の総合博覧会)へ出展し、飛騨地域が舞台となっている映画「君の名は。」を題材に、飛騨地域の観光プロモーション活動を展開 日程:7月6日～9日(担当:飛騨市) ・ジャパン・エキスポ終了後7月10日～11日にフランスとイギリスのAGTを訪問 エキスポへの来場者数 (計画)約24万人 (実績)23万8241人 <p>②コルマール国際旅行博への出展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フランス・コルマール国際旅行博(フランス、ドイツ、スイスから約3万人が来場)へ出展し、同じく出展する岐阜県と連携し、飛騨地域の観光プロモーション活動を展開 日程:11月10日～12日(担当:下呂市) ・コルマール国際旅行博終了後11月13日～14日にドイツのAGTを訪問 国際旅行博への来場者数 (計画)約3万人 (実績)2万3238人 <p>③コルマール・クリスマスマーケットへの出展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フランス・コルマールのクリスマスマーケット(フランス、ドイツ、スイスをはじめ世界各国から約150万人が来場)へ出展し、飛騨地域の観光プロモーション活動に加え、当地域の地酒など特産品の展示・販売も行い、観光PRと物販を一体化して展開 日程:11月25日～12月30日(担当:高山市) ・クリスマスマーケットオープン前は、コルマールで飛騨地方の工芸品等を取り扱う店「Konjaku」にて、地酒セミナーを実施 セミナー3回実施(プロフェッショナル、一般、学生向け) 31名参加 <p>④海外メディア招聘</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フランスで強い影響力を持つメディア「Dozodomo」を招聘し、飛騨地域の地酒や食について取材を受け、1月22日に白川村、1月23日に高山市、飛騨市、下呂市についての記事を公開 日程:12月13日～15日(担当:高山市・飛騨市・下呂市・白川村) 								
	達成状況	未達成	※具体的目標値と達成状況は別紙資料のとおり						
	未達成の場合 その理由	KPIの指標を高山市の欧州からの外国人観光客延べ宿泊者数としているが、本事業でターゲットとしたフランスでは前年比102%、イギリスでは110%、ドイツでは112%と増加した一方でイタリア、その他の宿泊客数が減少した。周辺自治体(飛騨市、下呂市)では欧州からの宿泊客数が増加しており、高山市の宿泊客が周辺自治体へ分散したことからKPI未達成となった。							
	<p>①フランスマーケット対象事業(2,500千円)</p> <p>これまでのコルマール・クリスマスマーケットでのテスト販売を踏まえ、飛騨商材のマーケティングリサーチ及びアンテナショップとしての存在価値が高いコルマールにある日本産品取扱い店「Konjaku」にて、飛騨の地酒や特産品等の販売と観光プロモーションを行うブースを設ける。同店との連携を継続的に行いながら、飛騨の観光PR拠点やアンテナショップとして活用を進めていく。コルマール国際旅行博に出展し、飛騨の観光情報を発信するのに併せ「Konjaku」での特産品販売促進を行う。</p> <p>②ドイツマーケット対象事業【新規】(2,000千円)</p> <p>全国民が海外旅行をするほどの市場規模が大きいドイツにおいて、フランスコルマールに近い西部のシュトゥットガルトで開催されるドイツ最大のBtoC旅行博(CMT)に出展し、市場を調査・分析し、誘客プロモーションを展開する。</p> <p>③メディア等招聘事業(2,000千円)</p> <p>飛騨の強みである自然・伝統文化を活かし、フランス及びドイツの多くのフォロワーを持つブロガー、食やアニメ等の目的に特化したウェブ系メディア等を飛騨地域に招聘し、食・工芸品・アニメ聖地等のテーマによる取材ルートを提供することで、周遊型・滞在型のSIT(個人の特別な趣向に訴求したツアー)誘客を促進する。</p>								
今後の事業方針									
特記事項									
事務局整理欄	地方創生推進交付金 (平成28年度は、地方創生加速化交付金(補助率10/10)で実施)	担当部課	商工観光部 観光課						

地方創生関係交付金に係る事業検証シート

No. 2

事業名称	外国人観光客受入体制強化事業		
事業目的	飛騨地域内における特区通訳案内士を養成し、通訳ガイド付きの着地型・滞在型ツアーの造成を促進するとともに、来訪した外国人観光客に対し、国・地域ごとの旅行形態、消費額、交通手段等に加え、当地域の魅力や改善点の把握を行い、外国人観光客の受入環境の強化を図る。	目的区分	観光振興
	実施区分	広域連携 (高山市・飛騨市・下呂市・白川村・県)	
	総事業費	589,090 円	
事業概要	飛騨地酒ツーリズム推進事業のようなインバウンド戦略を進めるとともに、当地域における受入環境整備として、特区通訳案内士(平成27年11月27日、飛騨地域国際観光振興特区認定)を養成し、通訳ガイド付きの着地型・滞在型ツアーの造成を進め、更なる外国人観光客の受入体制の強化を図る。		
	事業成果	①特区通訳案内士養成講座 ・飛騨地域内で有償での通訳案内業務を可能とする地域通訳案内士(中国語)の養成講座を実施 JTB総合提携店(株)高山エース旅行センターに委託 受講申込み者27名 修了者12名	
事業における目標値の達成状況		達成状況	達成
	未達成の場合 その理由		
今後の事業方針	① 地域通訳案内士養成事業(4,500千円) 構造改革特別区域計画に基づき、平成30年度は英語の地域通訳案内士の養成を行う。 ② 地域通訳案内士活用促進事業【新規】(1,000千円) 共同プロモーションとして、地域通訳案内士の個人プロフィール、得意な案内コースを紹介するウェブサイトを新たに立ち上げるとともに、ガイド能力向上のため飛騨地域の伝統産業について学べる研修等を実施する。		
特記事項			
事務局整理欄	地方創生推進交付金 (平成28年度は、地方創生加速化交付金(補助率10/10)で実施)	担当部課	商工観光部 観光課

地方創生関係交付金に係る事業検証シート

No. 3

事業名称	飛騨地域移住・定住促進連携事業		目的区分	移住推進				
事業目的	飛騨地域への移住を考える首都圏等在住者を対象に、移住相談会の実施、飛騨地域での就業体験や移住者との交流等を行うとともに、移住後の生活環境の充実を図ることにより、飛騨地域への移住を促進する。		実施区分	広域連携 (高山市・飛騨市・下呂市・白川村・県)				
			総事業費	1,974,088 円				
			交付金充当額	907,124 円				
事業概要	これまで行政で実施してきた移住交流イベントやSNS等によるイベント情報の発信などの取り組みを、協力人材や官民協働による移住戦略組織(飛騨地域移住サポートセンター)が中心になって運営できるよう、ノウハウや人的ネットワークの引き継ぎ、SNS等での情報拡散の手法等を関係者・関係団体で共有し、移行させる。平成29年度は、移住の最大の課題である「仕事」をキーワードに、首都圏での飛騨地域の事業者課題解決セミナー・飛騨地域でのインターン等を通して、より詳細な移住希望者のニーズを汲み取り、首都圏側と飛騨地域側のパイプを確実につなぐことで、人が流れ込むスキームを完成させる。							
事業成果	<p>①飛騨地域の民間事業者課題解決セミナーの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首都圏において、移住検討者自らが飛騨地域の仕事について考えるセミナーを開催。飛騨地域の企業が登壇、飛騨で働き暮らすことはそれほどハードルが高くはないということを知つてもらうとともに、移住検討者が希望する仕事と飛騨地域の事業者が求めている人材のマッチングをし、希望者にはインターンシップ実施の橋渡しも実施。 <p>民間事業者課題解決セミナー 東京で3回開催 延べ参加者数92名</p> <p>②飛騨「未来の地域編集部」の運営、地元ライターによる飛騨地域の情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度、準備室として立ち上がった飛騨「未来の地域編集部」が、更に質の高いコンテンツ制作を維持するため、引き続きウェブマガジン「コロカル」編集部の指導を受けながら「グッとくる飛騨」にて、飛騨地域の情報発信を実施。 ・地元ライター等による連載記事18本 ・地元ライターによる特集記事「飛騨の仕事事情」前編・後編 ・コロカル飛騨特集連載記事6本 <p>③官民協働による移住戦略組織の構築、移住コーディネーターの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひだアンバサダー(移住サポートー。移住コーディネーターより名称変更)の育成ワークショップを各4市村で開催 延べ参加者数61名 <p>④首都圏での移住促進イベントの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首都圏において、「飛騨(HIDA)」と関わるイベントとして、飛騨地域の最初の接点となる移住の入り口イベントを実施 参加者数24名 <p>⑤移住フェアへの出展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JOIN移住・交流＆地域おこしフェアへ出展し移住相談や飛騨地域のPRを実施 一般来場者約8,000名、移住相談16名、アンケート回答者80名 <p>⑥飛騨での移住者交流イベントの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飛騨地域に在住する移住者が集うイベントとして、移住者同士や地域の人との接点をつくることを目的に実施 参加者数38名 							
	達成状況	未達成	※具体的目標値と達成状況は別紙資料のとおり					
	未達成の場合 その理由	平成28年度までは移住相談者数をKPIに設定していたが、すでに大幅に達成したため次のステップとして、より直接的に施策の効果を図ることのできる移住者数をKPIとした。全国的に移住者獲得競争が過熱していることから目標を達成できておらず、今後は他地域との差別化を図る必要がある。						
	<p>①飛騨仕事探しサイト「HIDA-job(仮称)」の開設(4,300千円)</p> <p>移住を検討している者が抱えている仕事探しの悩みを解消するため、民間の求人専門事業者のサイト内に飛騨地域の求人ページを作り、求職者と求人者のマッチングを図る。</p> <p>②飛騨地域の民間事業者の課題解決セミナー、インターンシップの開催(2,500千円)</p> <p>飛騨地域の民間事業者を対象とした課題解決セミナーを飛騨地域と首都圏で行うとともに、飛騨地域においてインターンシップを実施する。</p> <p>③飛騨地域の住宅・空き家情報等の一元管理</p> <p>④飛騨地域移住サポートセンターの運営等(2,380千円)</p> <p>⑤飛騨地域総合移住HP「グッとくる飛騨」等の運用保守(2,200千円)</p> <p>⑥移住フェア等への出展(620千円)</p>							
特記事項								
事務局整理欄	地方創生推進交付金 (平成28年度は、地方創生加速化交付金(補助率10/10)で実施)	担当部課	企画部 地域振興課					

地方創生関係交付金に係る事業検証シート

No. 4

事業名称	飛騨里山文化遺産誘客推進プロジェクト		目的区分	しごと創生		
事業目的	訪れただけでは伝わりにくい日本の普遍的な価値を全国に広く発信し、本質を伝えることができる商品等の開発と生産及び販売、小規模な交流体験イベントを多数造成することで来訪者に伝える仕組みづくりを行い、飛騨市への誘客と持続可能な地域づくりを行う。		実施区分	飛騨市単独		
			総事業費	11,656,578 円		
			交付金充当額	5,828,289 円		
事業概要	飛騨市に今もなお残る「祭り」「在来種」「多様な植物(薬草)」と、それらが今日に至るまで地域で受け継がれてきた背景・暮らしなどを含めた里山の文化遺産は、日本人に共通した普遍的な価値・資源であり日本の原風景である。訪れただけでは分からぬこれらの価値を全国に広く発信する機会を作るとともに、そうした価値の本質を伝えることができる商品等の開発と生産、また伝わりにくい価値を小規模な交流体験イベントを多数造成することで来訪者に伝え、飛騨市への誘客増につなげる仕組みづくりを行う。また、里山文化遺産を活用した一連の取り組みを地域住民の「気づき」につなげ、貴重な里山文化遺産というローカルブランドの確立と継承を目指す。					
事業成果	<p>①里山文化遺産を広く発信するための取り組み【5,754千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飛騨で採れる薬草を活用した薬草茶を、若い世代の方達にも気軽に飲んでいただけるよう、tabel(株)の新田理恵氏を講師に招き、薬草茶を自分の身体の状態に合わせてブレンドし飲む体験「薬草ティーセレモニー」を開発。図書館とのコラボイベントや薬草フェスティバル、市外イベント等で披露し、市の薬草のPRを図った。 ・日々の生活に薬草を気軽に取り入れるための広報・啓発を目的として、「飛騨市薬草フェスティバル」を10月18~19日に開催。首都圏で薬草茶の販売等を行っているtabel(株)の新田理恵氏を招いたパネルセッションや蕪水亭での夕食交流会、市内各所でのワークショップ等を実施し、延べ380名が参加。 ・古川祭をより広くPRするため、旗立て作業などの古川祭の準備行為となる行事や、櫓組作業などの次代に伝承すべき技術、そのほか住民の生活に密着した古川祭の一連の行為を記録映像として撮影。編集したものをDVDとして、「古川祭記録編」、「記録ダイジェスト編」、「屋台紹介編」の3つに分けて作製し、一部は飛騨古川まつり会館にて活用。 					
	<p>②里山文化遺産を保全するための取り組み【1,800千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飛騨在来種えごま「飛系アルプス1号」の生産拡大を図るため、生産農家に対し、飛系えごま出荷組合への全量出荷を条件に、収量1kg当たり1,000円を支援。 <p>出荷量1,800kg 栽培面積77,000m²</p>					
	<p>③里山の文化遺産を活用した誘客を図るための仕組みづくり【4,104千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「飛騨みんなの博覧会」を10月14日~11月26日の期間開催。全35プログラムを提供し(内5プログラムは天候不順により中止)、延べ356名が参加。(うち、約8割が市内からの参加) 					
事業における目標値の達成状況	達成状況	達成	※具体的目標値と達成状況は別紙資料のとおり			
	未達成の場合 その理由					
今後の事業方針	飛騨里山文化遺産に関する情報発信を継続して行いながら、里山の文化遺産を活用した誘客を図るための仕組みづくりを行う。					
	<p>③里山の文化遺産を活用した誘客を図るための仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模交流型イベントカタログ制作経費 5,000千円 ・小規模交流型イベントPR及びプロモーション・広告経費 5,000千円 					
特記事項						
事務局整理欄	地方創生推進交付金	担当部課	企画部 総合政策課 商工観光部 観光課 農林部 農業振興課 企画部 地域振興課			

地方創生関係交付金に係る事業検証シート

No. 5

事業名称	飛騨神岡宇宙最先端科学パーク構想		目的区分	しごと創生					
事業目的	神岡鉱山及び鉱山城下町としての地域がこれまで長い時間かけて築いてきた既にある歴史や文化を背景に、最先端宇宙物理学に代表される学びや、レールマウンテンバイクなどの体験の課題を明確にし解決する。		実施区分	飛騨市単独					
			総事業費	2,475,235 円					
			交付金充当額	1,130,017 円					
事業概要	スーパーカミオカンデに代表される最先端宇宙物理学研究を来訪者が身近に感じることができる環境の整備と、既に一定の集客力を有する「レールマウンテンバイク」のさらなるブラッシュアップと魅力化、鉱山城下町として栄えた神岡町の当時の趣を今に残す昭和レトロの街並みの魅力発信などについて、それらを線でつなぐ仕組みをつくることで地域が持つ魅力の最大化を図るとともに、それらを武器とした誘客を図る。また、当事業の推進に深い関わりがある最先端科学研究の円滑かつ継続的な実施による地域ブランド力の向上と定住人口の確保のため、住民にとって身近な研究、研究者にとって身近な住民となるよう両者の距離を縮め、研究を支える国内外の研究者の滞在環境の向上を図る。								
事業成果	<p>①カミオカンデに代表される宇宙最先端科学研究を来訪者が身近に感じができる環境の整備【1,843千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成31年完成予定の「ひだ宇宙科学館カミオカラボ」の展示展示内容をより充実した展示とするための有識者会議を2回及び実務者会議を2回実施。 宇宙まるごと創生塾 飛騨アカデミーによるスーパーカミオカンデを含めた鉱山内を探検するイベント「ジオスペースアドベンチャー」(参加者数:800名)や、世界や日本の超一流の講師による授業を受けることができる「夢のたまご塾」(参加者数:39名)を実施。 <p>②住民にとって身近な研究、研究者にとって身近な住民など両者の距離を縮め、研究を支える国内外の研究者の滞在環境の向上【631千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京大学宇宙線研究所及び宇宙まるごと創生塾飛騨アカデミーの協力により、宇宙物理学を身近に感じてもらえるイベントを複数回実施。 <ul style="list-style-type: none"> サイエンスカフェを初めて飛騨市神岡図書館内で実施した。(参加者数:30名) KAGRA見学会(参加者数:143名) SK一般公開(参加者数:300名) 								
事業における目標値の達成状況	達成状況	一部達成	※具体的目標値と達成状況は別紙資料のとおり						
	未達成の場合 その理由	気候の変動により旅行者数が大幅に減少した(春の寒波及び秋の台風) 高齢化により宿泊施設の稼働率低下及び少子化によるスポーツ合宿の参加者減少							
今後の事業方針	<p>①カミオカンデに代表される宇宙最先端科学研究を来訪者が身近に感じができる環境の整備 (先端科学に触れるイベント開催関係)</p> <ul style="list-style-type: none"> ジオスペースアドベンチャー開催補助金(2,000千円) 夢のたまご塾開催補助金(850千円) プレオープンイベント開催経費(1,000千円) <p>②住民にとって身近な研究、研究者にとって身近な住民など両者の距離を縮め、研究を支える国内外の研究者の滞在環境の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> デマンドタクシー運営経費(6,000千円) (サイエンスカフェ・施設見学会関係) 講師謝礼及び旅費(425千円) 消耗品及び印刷製本費(400千円) 傷害保険料(14千円) 自動車借上料(260千円) 								
	特記事項								
事務局整理欄	地方創生推進交付金		担当部課	企画部 地域振興課					

地方創生関係交付金に係る事業検証シート

No. 6

事業名称	道の駅「宙(すかい)ドーム・神岡」物販棟増築事業		
事業目的	目的区分	しごと創生	
	実施区分	飛騨市単独	
	総事業費	136,404,000 円	
事業概要	最先端宇宙物理学研究の紹介施設整備は、道の駅「宙(すかい)ドーム・神岡」の既存の物販スペースを利活用し整備することとなるため、集客力のある物販施設を更に同敷地内(現在の従業員駐車場)に増築する。		
事業成果	①物販棟増築工事 ②渡り廊下建設工事 ③既存施設改修工事(エントランス等) ⑤従業員駐車場整備工事 合計 132,646千円 ④施工監理委託 3,758千円		
事業における目標値の達成状況	達成状況	—	
	未達成の場合 その理由	—	
今後の事業方針	施設整備については平成29年度に完了。 今後は、東大連携商品の新商品開発支援と平行し、連携商品を含めた神岡ならではのお土産物などの販売を推進する。		
特記事項			
事務局整理欄	地方創生拠点整備交付金	担当部課	企画部 地域振興課

今後のスケジュール

別紙③

政策協議

6-10月

予算編成

10-11月

6月

第1回飛騨市総合政策審議会
(平成30年7月5日)

10月

第2回飛騨市総合政策審議会
(平成30年10月10日)

11月

予算査定

11-1月

1月

第3回飛騨市総合政策審議会
(平成30年11月or12月)